



Red Hat Enterprise Linux 9

GNOME デスクトップ環境を使用したシステムの 管理

GNOME デスクトップ環境を使用した Red Hat Enterprise Linux 9 の管理

Red Hat Enterprise Linux 9 GNOME デスクトップ環境を使用したシステムの管理

GNOME デスクトップ環境を使用した Red Hat Enterprise Linux 9 の管理

法律上の通知

Copyright © 2024 Red Hat, Inc.

The text of and illustrations in this document are licensed by Red Hat under a Creative Commons Attribution–Share Alike 3.0 Unported license ("CC-BY-SA"). An explanation of CC-BY-SA is available at

<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/>

. In accordance with CC-BY-SA, if you distribute this document or an adaptation of it, you must provide the URL for the original version.

Red Hat, as the licensor of this document, waives the right to enforce, and agrees not to assert, Section 4d of CC-BY-SA to the fullest extent permitted by applicable law.

Red Hat, Red Hat Enterprise Linux, the Shadowman logo, the Red Hat logo, JBoss, OpenShift, Fedora, the Infinity logo, and RHCE are trademarks of Red Hat, Inc., registered in the United States and other countries.

Linux[®] is the registered trademark of Linus Torvalds in the United States and other countries.

Java[®] is a registered trademark of Oracle and/or its affiliates.

XFS[®] is a trademark of Silicon Graphics International Corp. or its subsidiaries in the United States and/or other countries.

MySQL[®] is a registered trademark of MySQL AB in the United States, the European Union and other countries.

Node.js[®] is an official trademark of Joyent. Red Hat is not formally related to or endorsed by the official Joyent Node.js open source or commercial project.

The OpenStack[®] Word Mark and OpenStack logo are either registered trademarks/service marks or trademarks/service marks of the OpenStack Foundation, in the United States and other countries and are used with the OpenStack Foundation's permission. We are not affiliated with, endorsed or sponsored by the OpenStack Foundation, or the OpenStack community.

All other trademarks are the property of their respective owners.

概要

このドキュメントでは、RHEL 9 で利用できる唯一のデスクトップ環境である GNOME を使用して、特定のシステム管理タスクを実行する方法を説明しています。

目次

はじめに	4
RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)	5
第1章 GNOME でのソフトウェアのインストール	6
1.1. 前提条件	6
1.2. GNOME SOFTWARE アプリケーション	6
1.3. GNOME ソフトウェアを使用したアプリケーションのインストール	6
1.4. アプリケーションをインストールしてファイルタイプを開く	8
1.5. GNOME での RPM パッケージファイルのインストール	8
1.6. アクティビティの概要の検索からのアプリケーションのインストール	9
1.7. 関連情報	10
第2章 FLATPAK を使用したアプリケーションのインストール	11
2.1. FLATPAK 技術	11
2.2. FLATPAK のセットアップ	11
2.3. RED HAT FLATPAK リモートの有効化	11
2.4. FLATPAK アプリケーションの検索	12
2.5. FLATPAK アプリケーションのインストール	13
2.6. FLATPAK アプリケーションの起動	13
2.7. FLATPAK アプリケーションの更新	14
2.8. グラフィカルインターフェイスでの FLATPAK アプリケーションのインストール	14
2.9. グラフィカルインターフェイスでの FLATPAK アプリケーションの更新	15
第3章 GNOME を使用した更新のためのシステムの登録	16
3.1. GNOME での RED HAT アカウントを使用したシステム登録	16
3.2. GNOME でのアクティベーションキーを使用したシステム登録	17
3.3. GNOME を使用したシステムの登録解除	18
3.4. 関連情報	19
第4章 デスクトップ GUI を使用した言語の変更	20
第5章 ラップトップを閉じたときのシステム動作の変更	22
第6章 電源ボタンの動作の変更	23
6.1. SYSTEMD の電源ボタンの動作を変更する	23
6.2. GNOME の電源ボタンの動作を変更する	24
第7章 システムのセキュリティー分類の表示	25
7.1. システムのセキュリティー分類バナーの有効化	25
7.2. システムのセキュリティー分類の通知	26
第8章 すべてのユーザーに対するデフォルトのデスクトップセッションの設定	28
第9章 プリンターのセットアップ	29
9.1. GNOME でのプリンター設定へのアクセス	29
9.2. 設定で新しいプリンターを追加する	30
9.3. 設定でテストページを印刷する	33
第10章 プリンター設定の変更	34
10.1. プリンターの詳細の表示および編集	34
10.2. デフォルトプリンターの設定	36
10.3. 印刷オプションの設定	36
10.4. プリンターの削除	37

第11章 ネットワーク共有上のファイルの閲覧	39
11.1. ネットワーク共有の GVFS URI 形式	39
11.2. GNOME でのストレージボリュームのマウント	39
11.3. GNOME でのストレージボリュームのアンマウント	40
11.4. 関連情報 (または次の手順)	40
第12章 GNOME でのストレージボリュームの管理	41
12.1. GVFS システム	41
12.2. GVFS URI 文字列の形式	41
12.3. GNOME でのストレージボリュームのマウント	41
12.4. GNOME でのストレージボリュームのアンマウント	42
12.5. ファイルシステムの GVFS マウントへのアクセス	42
12.6. 利用可能な GIO コマンド	43
12.7. サンプル GIO コマンド	44
12.8. GVFS メタデータの概要	45
12.9. カスタム GIO メタデータ属性の設定	45
12.10. GVFS マウントのパスワード管理	46
12.11. GVFS バックエンド	46
第13章 GNOME でのボリューム管理のトラブルシューティング	49
13.1. 非 GIO クライアントから GVFS の場所へのアクセスに関するトラブルシューティング	49
13.2. 非表示の接続 USB ディスクのトラブルシューティング	49
13.3. FILES に記載されている不明なパーティションまたは不要なパーティションのトラブルシューティング	50
13.4. リモート GVFS ファイルシステムへの接続が利用できない場合のトラブルシューティング	50
13.5. GNOME でのビジーディスクのトラブルシューティング	51
第14章 NFS でユーザー設定の保存	52
第15章 ファイル関連付けの設定	53
15.1. 多目的インターネットメール拡張の種類	53
15.2. 全ユーザー用のカスタム MIME タイプの追加	53
15.3. 個別ユーザー用のカスタム MIME タイプの追加	55
15.4. デフォルトの MIME タイプを上書きするオプション	56
15.5. すべてのユーザーに対してデフォルトの登録アプリケーションの上書き	57
15.6. 個々のユーザー用にデフォルトの登録アプリケーションの上書き	57

はじめに



重要

GNOME が正しく機能するには、システムが **3D アクセラレーション** をサポートしている必要があります。これには、ベアメタルシステムだけでなく、**VMWare** などのハイパーバイザーソリューションも含まれます。

VMWare 仮想マシンで GNOME が起動しない場合、または GNOME のパフォーマンスが低下する場合は、こちらのソリューションを参照してください。 [Why does the GUI fail to start on my VMware virtual machine?](#)

RED HAT ドキュメントへのフィードバック (英語のみ)

Red Hat ドキュメントに関するご意見やご感想をお寄せください。また、改善点があればお知らせください。

Jira からのフィードバック送信 (アカウントが必要)

1. [Jira](#) の Web サイトにログインします。
2. 上部のナビゲーションバーで **Create** をクリックします。
3. **Summary** フィールドにわかりやすいタイトルを入力します。
4. **Description** フィールドに、ドキュメントの改善に関するご意見を記入してください。ドキュメントの該当部分へのリンクも追加してください。
5. ダイアログの下部にある **Create** をクリックします。

第1章 GNOME でのソフトウェアのインストール

GNOME では、複数の方法を使用して、アプリケーションやその他のソフトウェアパッケージをインストールできます。

1.1. 前提条件

- システムに管理者権限がある。

1.2. GNOME SOFTWARE アプリケーション

GNOME ソフトウェアは、グラフィカルインターフェイスで、アプリケーションおよびソフトウェアコンポーネントのインストールおよび更新を可能にするユーティリティです。

GNOME ソフトウェアは、グラフィカルアプリケーションのカタログを提供します。これは、***.desktop** ファイルを含むアプリケーションです。利用できるアプリケーションは、目的に応じて複数のカテゴリーにまとめられます。

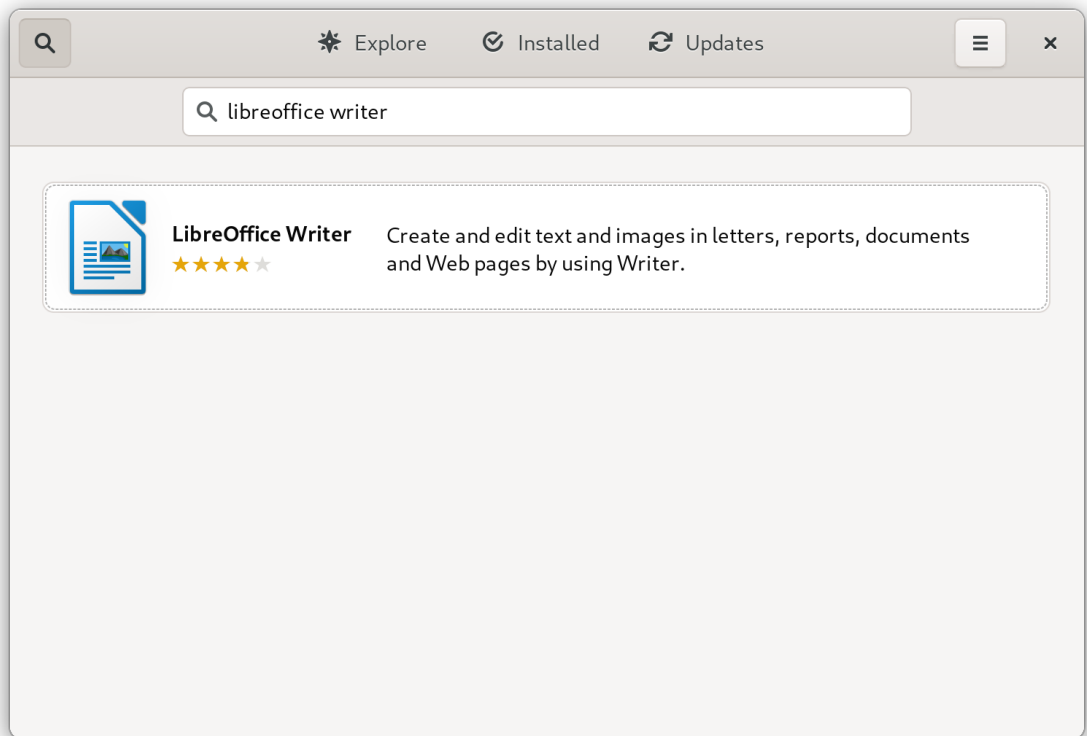
GNOME ソフトウェアは、バックエンドとして PackageKit テクノロジーおよび Flatpak テクノロジーを使用します。

1.3. GNOME ソフトウェアを使用したアプリケーションのインストール

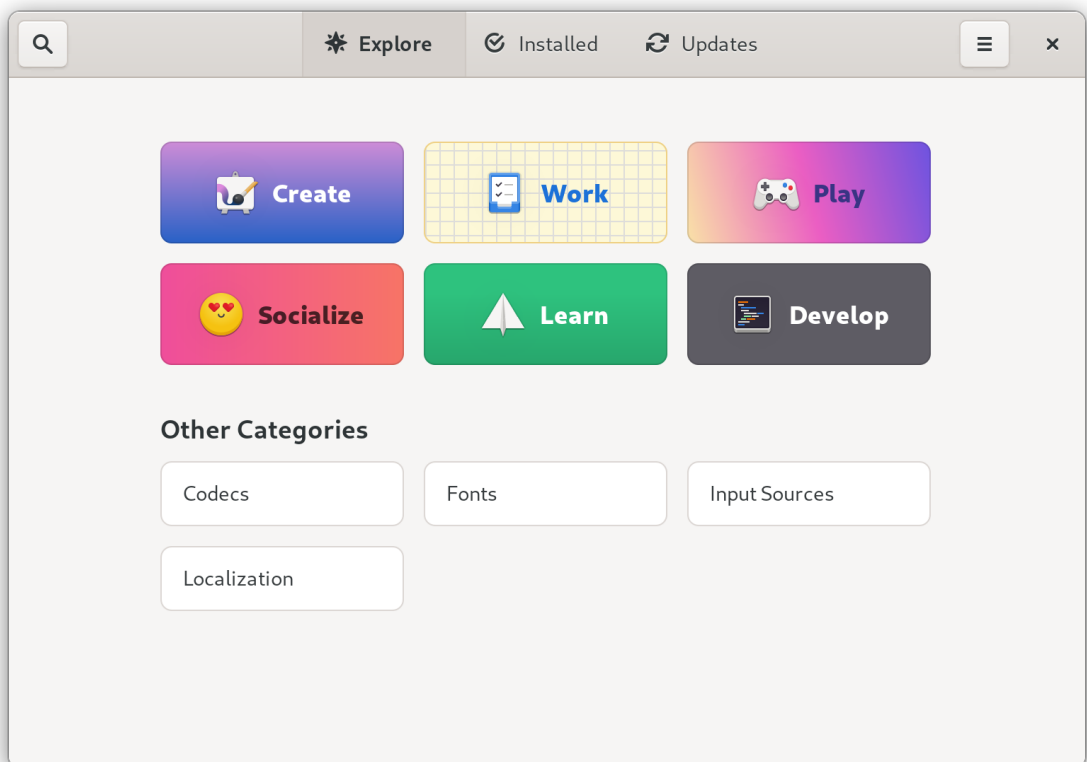
この手順では、GNOME ソフトウェア ユーティリティを使用してグラフィカルアプリケーションをインストールします。

手順

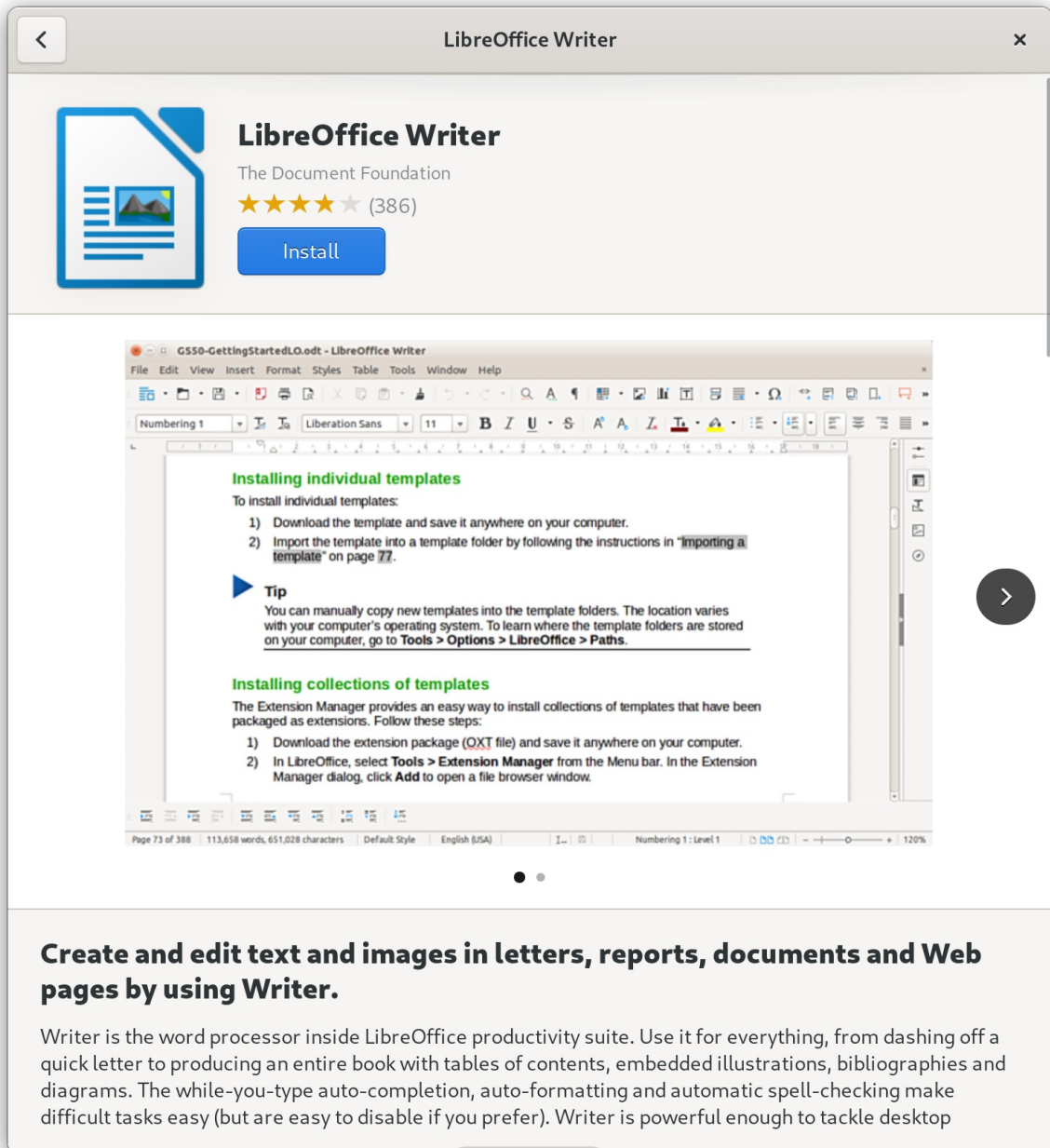
1. GNOME Software アプリケーションを起動します。
2. 以下のいずれかの方法で、インストールするアプリケーションを検索します。
 - 画面左上の検索ボタン () をクリックし、アプリケーションの名前を入力します。



- Explore タブでアプリケーションカテゴリーを参照します。



3. 選択したアプリケーションをクリックします。
4. **Install** をクリックします。



Create and edit text and images in letters, reports, documents and Web pages by using Writer.

Writer is the word processor inside LibreOffice productivity suite. Use it for everything, from dashing off a quick letter to producing an entire book with tables of contents, embedded illustrations, bibliographies and diagrams. The while-you-type auto-completion, auto-formatting and automatic spell-checking make difficult tasks easy (but are easy to disable if you prefer). Writer is powerful enough to tackle desktop

1.4. アプリケーションをインストールしてファイルタイプを開く

この手順では、特定のファイルタイプを開くことができるアプリケーションをインストールします。

前提条件

- ファイルシステムで、必要なファイルタイプのファイルにアクセスできます。

手順

1. 現在システムにインストールされていないアプリケーションに関連するファイルを開いてみてください。
2. GNOME は、ファイルを開くことができる適切なアプリケーションを自動的に識別し、アプリケーションのダウンロードを提供します。

1.5. GNOME での RPM パッケージファイルのインストール

この手順では、手動でファイルとしてダウンロードした RPM ソフトウェアパッケージをインストールします。

前提条件

- 必要な RPM パッケージをダウンロードしている。

手順

1. **ファイル** アプリケーションで、ダウンロードした RPM パッケージを保存するディレクトリーを開きます。



注記

デフォルトでは、ダウンロードしたファイルは `/home/user/Downloads/` ディレクトリーに保存されます。

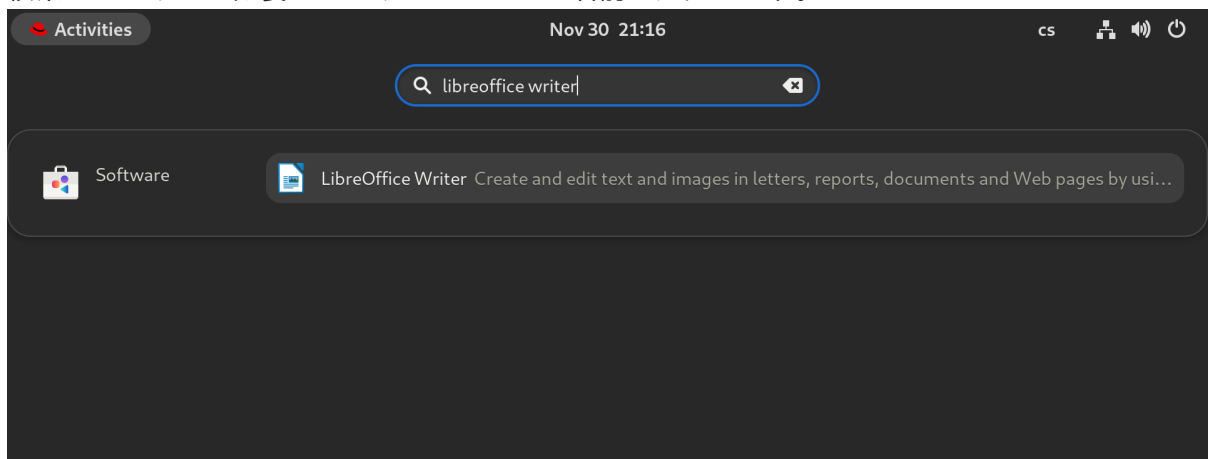
2. RPM パッケージファイルをダブルクリックして、インストールします。

1.6. アクティビティーの概要の検索からのアプリケーションのインストール

この手順では、GNOME アクティビティーの**概要** スクリーンの検索結果から、グラフィカルアプリケーションをインストールします。

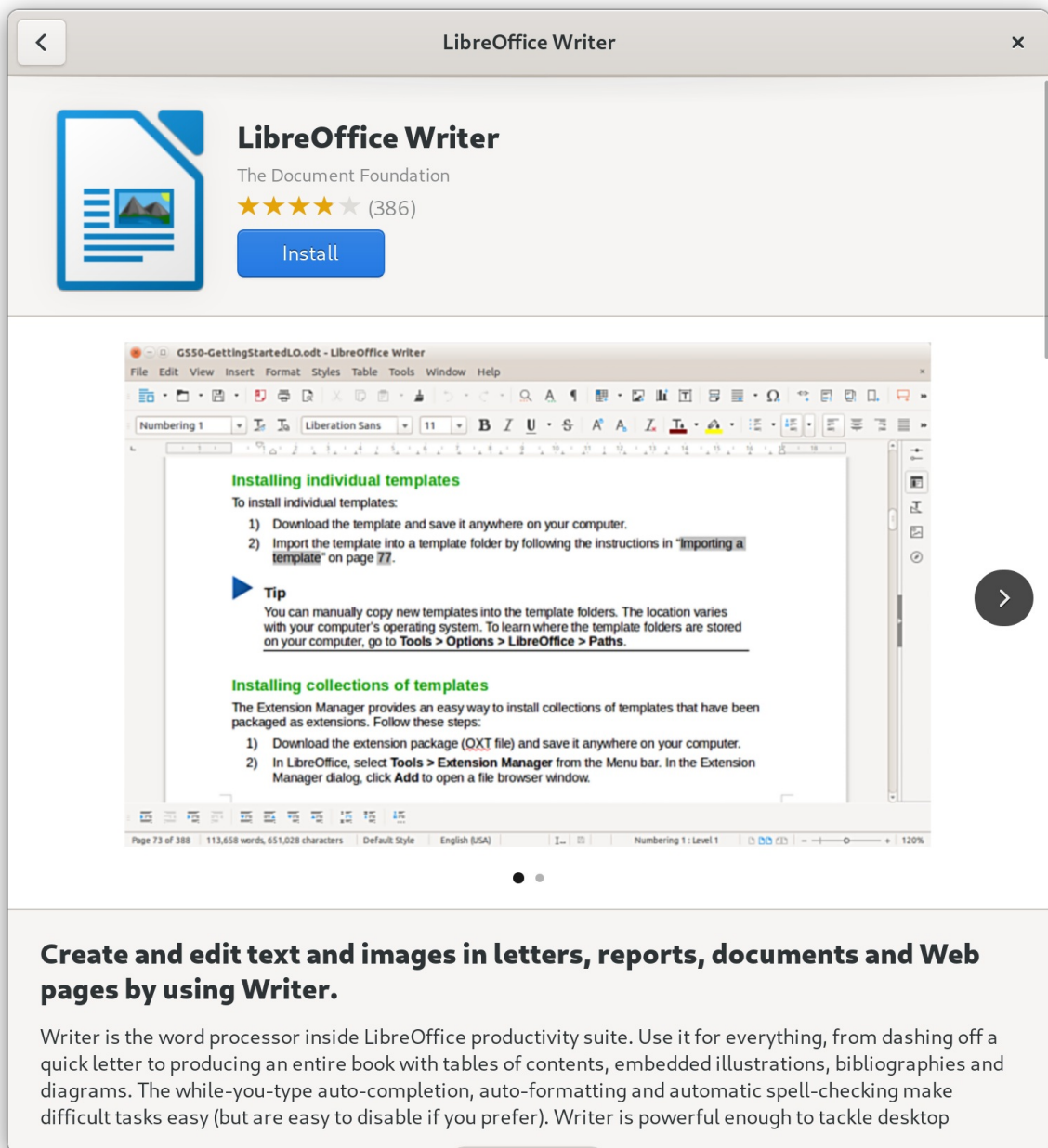
手順

1. **アクティビティーの概要** 画面を開きます。
2. 検索エントリーに必要なアプリケーションの名前を入力します。



検索結果には、アプリケーションのアイコン、名前、および説明が表示されます。

3. アプリケーションのアイコンをクリックして、**ソフトウェア アプリケーション**を開きます。



Create and edit text and images in letters, reports, documents and Web pages by using Writer.

Writer is the word processor inside LibreOffice productivity suite. Use it for everything, from dashing off a quick letter to producing an entire book with tables of contents, embedded illustrations, bibliographies and diagrams. The while-you-type auto-completion, auto-formatting and automatic spell-checking make difficult tasks easy (but are easy to disable if you prefer). Writer is powerful enough to tackle desktop

4. **インストール** をクリックして、**ソフトウェア** でのインストールを終了します。

検証

- **開く** をクリックして、インストールしたアプリケーションを起動します。

1.7. 関連情報

- [DNF ツールを使用したソフトウェアの管理](#)
- [2章Flatpak を使用したアプリケーションのインストール](#)

第2章 FLATPAK を使用したアプリケーションのインストール

Flatpak パッケージマネージャーを使用して特定のアプリケーションをインストールできます。次のセクションでは、コマンドラインおよびグラフィカルインターフェイスで、Flatpak アプリケーションを検索、インストール、起動、および更新する方法を説明します。



重要

Red Hat は、Flatpak アプリケーションをテクノロジープレビュー機能としてのみ提供しています。テクノロジープレビュー機能は、Red Hat 製品サポートのサービスレベルアグリーメント (SLA) の対象外であり、機能的に完全ではない場合があります。Red Hat は、実稼働環境でこれらを使用することを推奨していません。テクノロジープレビュー機能は、最新の製品機能をいち早く提供して、開発段階で機能のテストを行いフィードバックを提供していただくことを目的としています。Red Hat のテクノロジープレビュー機能のサポート範囲に関する詳細は、[テクノロジープレビュー機能のサポート範囲](#) を参照してください。

Flatpak パッケージマネージャー自体は完全にサポートされています。

2.1. FLATPAK 技術

Flatpak は、アプリケーションの構築、デプロイメント、配布、インストールのためのサンドボックス環境を提供します。

Flatpak を使用して起動するアプリケーションには、ホストシステムへの最小限のアクセス権があり、サードパーティーのアプリケーションからシステムのインストールを保護します。Flatpak は、ホストシステムにインストールされているライブラリーのバージョンに関係なく、アプリケーションの安定性を提供します。

Flatpak アプリケーションは、リモートと呼ばれるリポジトリから配布されます。Red Hat は、RHEL アプリケーションでリモートを提供します。また、サードパーティーのリモートも利用できます。Red Hat は、サードパーティーのリモートからのアプリケーションをサポートしません。

2.2. FLATPAK のセットアップ

この手順では、Flatpak パッケージマネージャーをインストールします。

手順

- **flatpak** パッケージをインストールします。

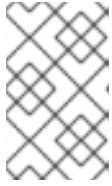
```
# dnf install flatpak
```

2.3. RED HAT FLATPAK リモートの有効化

この手順では、Red Hat Container Catalog をシステムの Flatpak リモートとして設定します。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルにアカウントがある。



注記

ユーザーがカスタマーポータルアカウントを持たない大規模なデプロイメントでは、Red Hat はレジストリーサービスアカウントを使用することを推奨します。詳細は、[Registry Service Accounts](#) を参照してください。

手順

1. **rhel** Flatpak リモートを有効にします。

```
$ flatpak remote-add \
  --if-not-exists \
  rhel \
  https://flatpaks.redhat.io/rhel.flatpakrepo
```

2. Red Hat Container Catalog にログインします。

```
$ podman login registry.redhat.io

Username: your-user-name
Password: your-password
```

Red Hat カスタマーポータルアカウントの認証情報またはレジストリーサービスアカウントのトークンを指定します。

デフォルトで、Podman はログアウトするまでしか認証情報を保存しません。

3. オプション: 認証情報を永続的に保存します。以下のオプションのいずれかを使用します。

- 現在のユーザーの認証情報を保存する。

```
$ cp $XDG_RUNTIME_DIR/containers/auth.json \
  $HOME/.config/flatpak/oci-auth.json
```

- システム全体に認証情報を保存する。

```
# cp $XDG_RUNTIME_DIR/containers/auth.json \
  /etc/flatpak/oci-auth.json
```

Red Hat では、認証情報をシステム全体にインストールする際には、レジストリーアカウントトークンを使用して Red Hat Container Catalog にログインすることをベストプラクティスとして推奨します。

検証

- 有効な Flatpak リモートをリスト表示します。

```
$ flatpak remotes

Name  Options
rhel  system,oci,no-gpg-verify
```

2.4. FLATPAK アプリケーションの検索

この手順では、コマンドラインで、有効な Flatpak リモートでアプリケーションを検索します。検索では、アプリケーション名と説明を使用します。

前提条件

- Flatpak がインストールされている。
- Red Hat Flatpak リポジトリが有効になっている。

手順

- 名前でアプリケーションを検索します。

```
$ flatpak search application-name
```

たとえば、**LibreOffice** アプリケーションを検索するには、以下を使用します。

```
$ flatpak search LibreOffice
```

検索結果には、アプリケーションの ID が含まれます。

```
Application ID          Version Branch Remotes Description
org.libreoffice.LibreOffice    stable rhel   The LibreOffice productivity suite
```

2.5. FLATPAK アプリケーションのインストール

この手順では、コマンドラインで、有効な Flatpak リモートから選択したアプリケーションをインストールします。

前提条件

- Flatpak がインストールされている。
- Red Hat Flatpak リモートが有効になっている。

手順

- **rhel** リモートからアプリケーションをインストールします。

```
$ flatpak install rhel application-id
```

application-id を、アプリケーションの ID に置き換えます。以下に例を示します。

```
$ flatpak install rhel org.libreoffice.LibreOffice
```

2.6. FLATPAK アプリケーションの起動

この手順では、コマンドラインから、インストールされた Flatpak アプリケーションを起動します。

前提条件

- Flatpak がインストールされている。
- 選択した Flatpak アプリケーションがインストールされている。

手順

- アプリケーションを起動します。

```
$ flatpak run application-id
```

application-id を、アプリケーションの ID に置き換えます。以下に例を示します。

```
$ flatpak run org.libreoffice.LibreOffice
```

2.7. FLATPAK アプリケーションの更新

この手順では、1つ以上のインストールされた Flatpak アプリケーションを、対応する Flatpak リモート内の最新バージョンに更新します。

前提条件

- Flatpak がインストールされている。
- Flatpak リモートが有効になっている。

手順

- 1つまたは複数の Flatpak アプリケーションを更新します。
 - 特定の Flatpak アプリケーションを更新するには、アプリケーション ID を指定します。

```
$ flatpak update application-id
```

- すべての Flatpak アプリケーションを更新するには、アプリケーション ID を指定しません。

```
$ flatpak update
```

2.8. グラフィカルインターフェイスでの FLATPAK アプリケーションのインストール

この手順では、**Software** アプリケーションを使用して Flatpak アプリケーションを検索します。

前提条件

- Flatpak がインストールされている。
- Red Hat Flatpak リモートが有効になっている。

手順

1. **Software** アプリケーションを開きます。

2. **Explore** タブがアクティブであることを確認します。
3. ウィンドウの左上隅にある検索ボタンをクリックします。
4. 入力ボックスに、**LibreOffice** などの、インストールするアプリケーションの名前を入力します。
5. 検索結果で適切なアプリケーションを選択します。
アプリケーションが複数回リストされている場合は、**Details** セクションの **Source** フィールドが **flatpaks.redhat.io** を報告するバージョンを選択します。
6. **Install** ボタンをクリックします。
7. **Software** がログインを要求する場合は、カスタマーポータル認証情報またはレジストリーサービスアカウントのトークンを入力します。
8. インストールプロセスが完了するまで待ちます。
9. オプション: **Launch** ボタンをクリックして、アプリケーションを起動します。

2.9. グラフィカルインターフェイスでの FLATPAK アプリケーションの更新

この手順では、**Software** アプリケーションを使用して、インストールされている1つ以上の Flatpak アプリケーションを更新します。

前提条件

- Flatpak がインストールされている。
- Flatpak リモートが有効になっている。

手順

1. **Software** アプリケーションを開きます。
2. **Updates** タブを選択します。
3. **Application Updates** セクションでは、Flatpak アプリケーションに対して利用可能な更新をすべて見つけることができます。
4. 1つ以上のアプリケーションを更新します。
 - 利用可能な更新をすべて適用するには、**Update All** ボタンをクリックします。
 - 特定のアプリケーションのみを更新するには、アプリケーションアイテムの横にある **Update** ボタンをクリックします。
5. オプション: アプリケーションの自動更新を有効にします。
 - a. ウィンドウの右上隅にあるメニューボタンをクリックします。
 - b. **Update Preferences** を選択します。
 - c. **Automatic Updates** を有効にします。
Flatpak アプリケーションが自動的に更新されるようになりました。

第3章 GNOME を使用した更新のためのシステムの登録

システムのソフトウェア更新を取得するには、システムを登録する必要があります。本セクションでは、GNOME を使用してシステムを登録する方法を説明します。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルの有効なアカウント
新規ユーザー登録は、[Red Hat アカウントの作成](#) ページを参照してください。
- アクティベーションキーを使用してシステムを登録する場合は、アクティベーションキーまたはキー
- 登録サーバーを使用してシステムを登録する場合は、登録サーバー

3.1. GNOME での RED HAT アカウントを使用したシステム登録

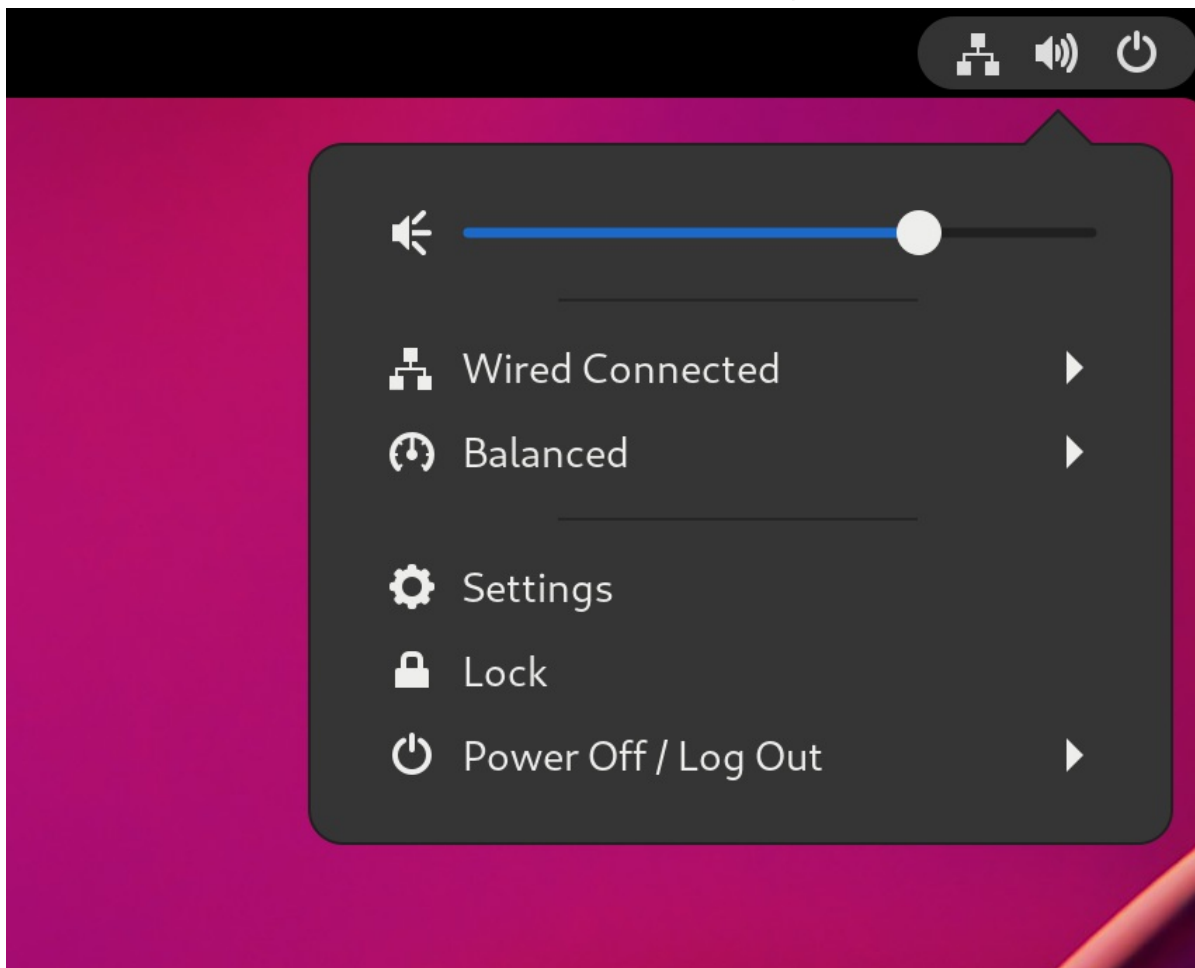
以下の手順に従って、システムを Red Hat アカウントに登録します。

前提条件

- Red Hat カスタマーポータルで有効なアカウント
新規ユーザー登録は、[Red Hat アカウントの作成](#) ページを参照してください。

手順

1. 画面の右上隅からアクセスできる **システムメニュー** を開き、**設定** をクリックします。



2. サブスクリプション+について に移動します。
3. Red Hat サーバーを使用していない場合:
 - a. **登録サーバー** セクションで、**カスタムアドレス** を選択します。
 - b. URL フィールドにサーバーアドレスを入力します。
4. **登録タイプ** セクションで、**Red Hat アカウント** を選択します。
5. **登録の詳細** セクションで:
 - Login フィールドに、Red Hat アカウントのユーザー名を入力します。
 - Password フィールドに、Red Hat アカウントのパスワードを入力します。
 - Organizaiton フィールドに組織の名前を入力します。
6. **Register** をクリックします。

3.2. GNOME でのアクティベーションキーを使用したシステム登録

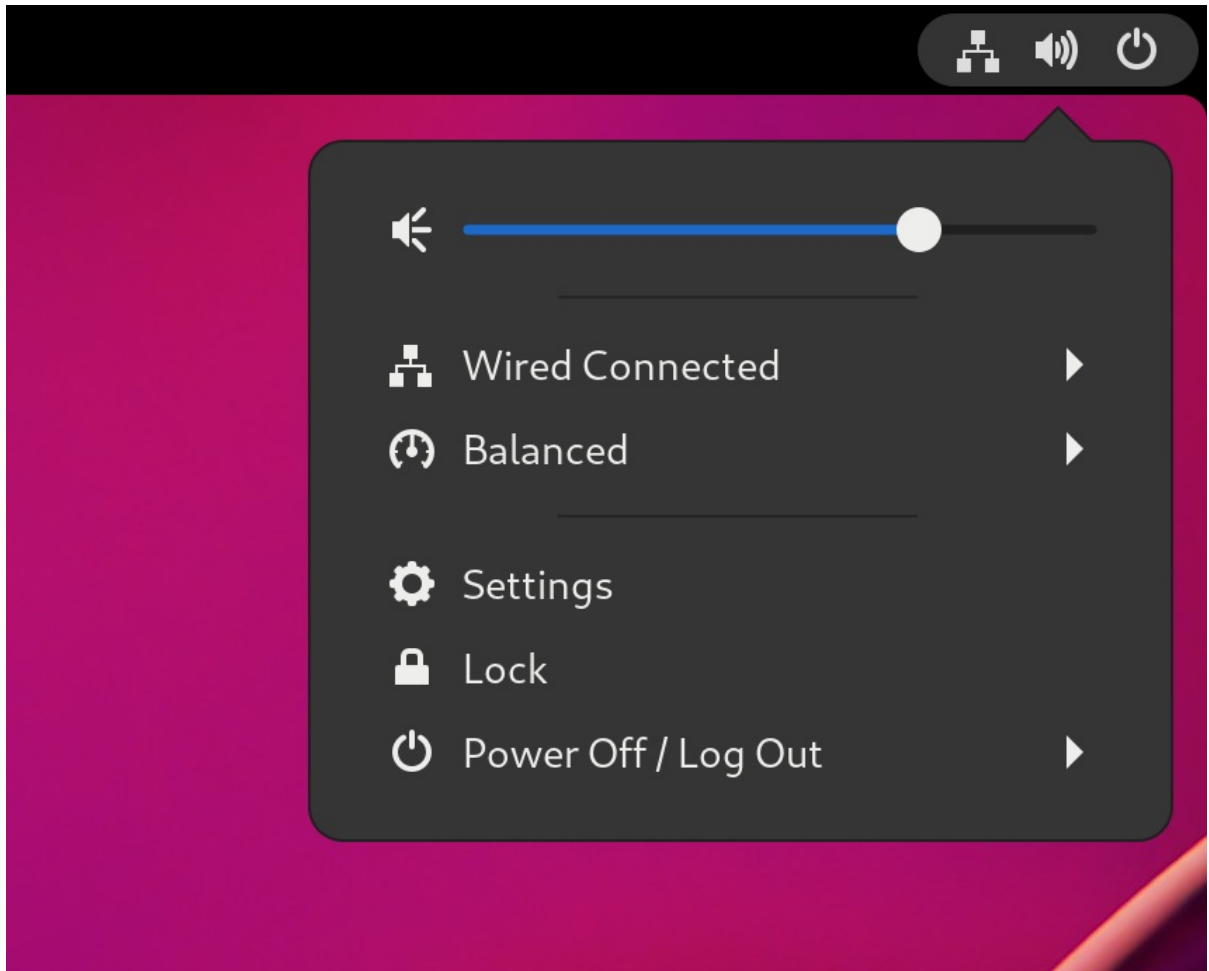
以下の手順に従って、システムをアクティベーションキーに登録します。組織の管理者からアクティベーションキーを取得できます。

前提条件

- アクティベーションキーまたはキー。
新しい [アクティベーションキー](#) を作成するには、アクティベーションキーページを参照してください。

手順

1. 画面の右上隅からアクセスできる **システムメニュー** を開き、**設定** をクリックします。



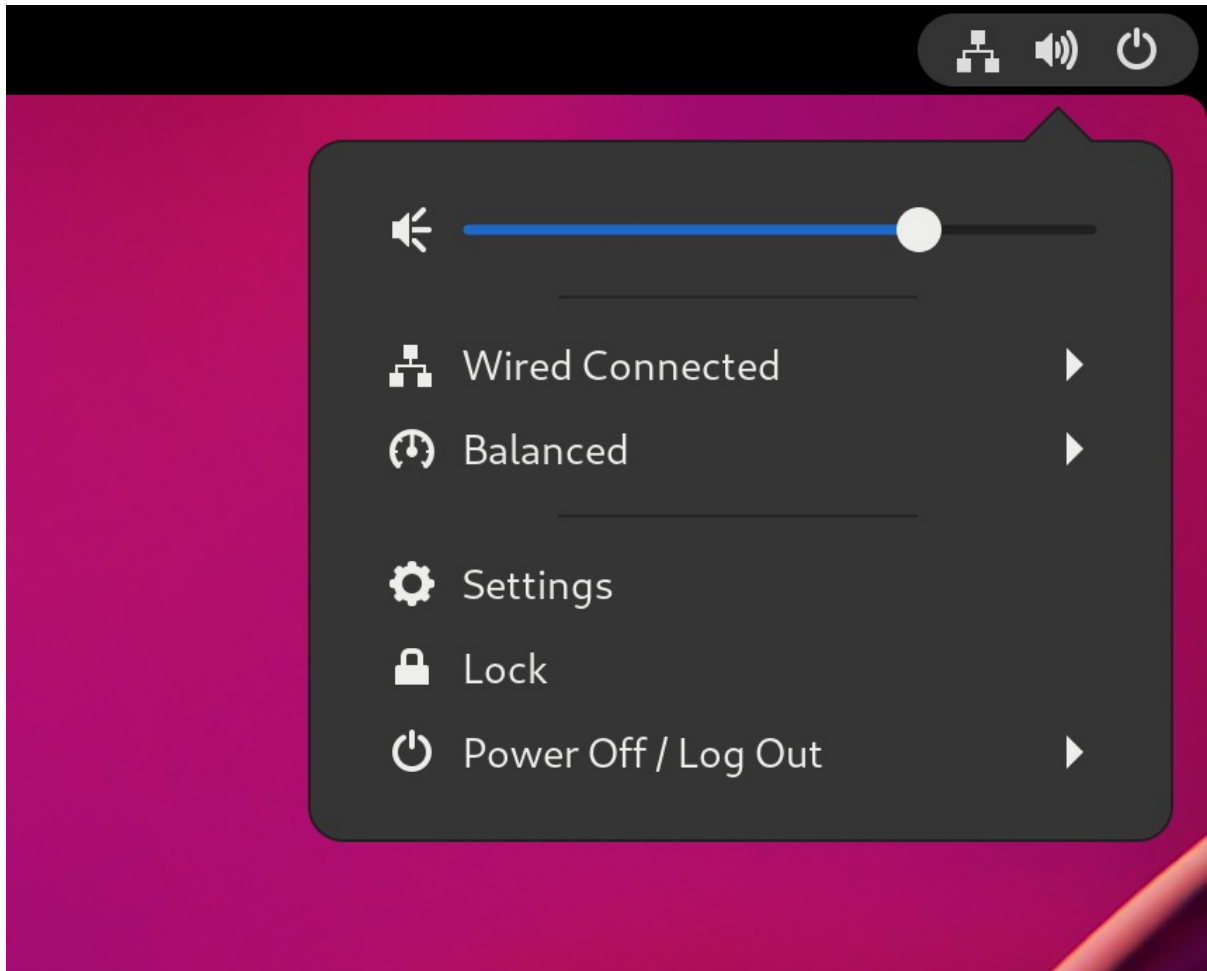
2. サブスクリプション+について に移動します。
3. Red Hat サーバーを使用していない場合:
 - a. 登録サーバー セクションで、カスタムアドレス を選択します。
 - b. URL フィールドにサーバーアドレスを入力します。
4. 登録の種類 セクションで、アクティベーションキー を選択します。
5. Registration Details で以下を行います。
 - アクティベーションキーフィールドにアクティベーション キーを入力します。キーをコンマ (,) で区切ります。
 - 組織 フィールドに組織の名前または ID を入力します。
6. Register をクリックします。

3.3. GNOME を使用したシステムの登録解除

以下の手順に従って、システムの登録を解除します。登録解除後、システムはソフトウェアの更新を受け取らなくなります。

手順

1. 画面の右上隅からアクセスできる システムメニュー を開き、設定 をクリックします。



2. サブスクリプション+について に移動します。
登録の詳細 画面が表示されます。
3. 登録解除 をクリックします。
システムの登録解除による影響に関する警告が表示されます。
4. 登録解除 をクリックします。

3.4. 関連情報

- [システム登録およびサブスクリプション管理](#)
- [カスタマーポータルのアクティベーションキーを作成する](#)
- [Understanding Activation Keys](#)
- [アクティベーションキーを使用して、システムを Red Hat サブスクリプション管理に登録する方法](#)

第4章 デスクトップ GUI を使用した言語の変更

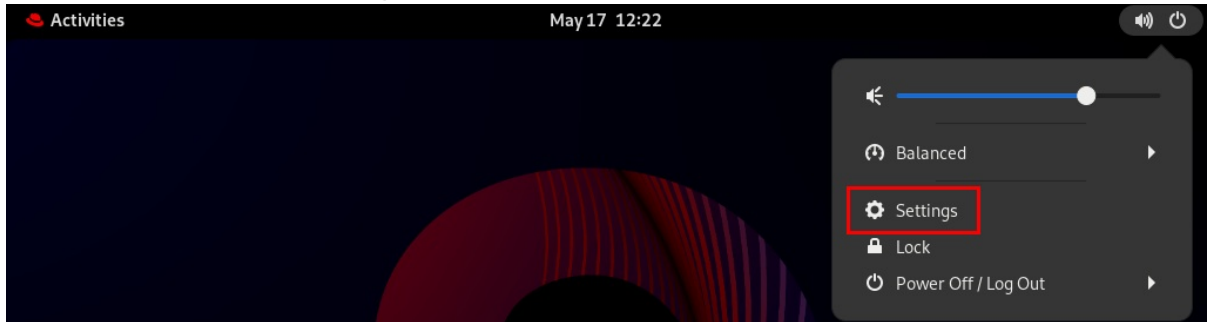
本セクションでは、デスクトップ GUI を使用してシステム言語を変更する方法を説明します。

前提条件

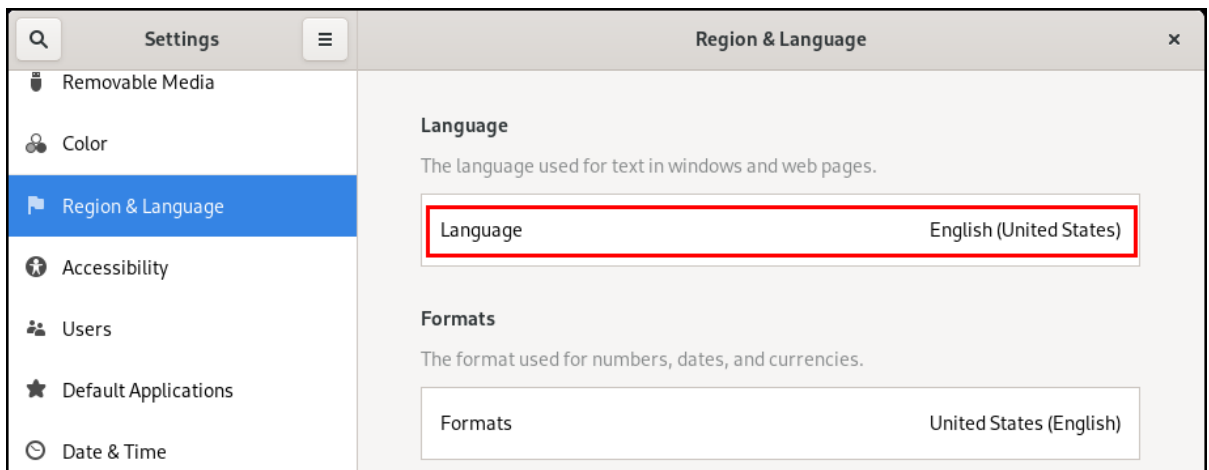
- システムに必要な言語パッケージがインストールされている。

手順

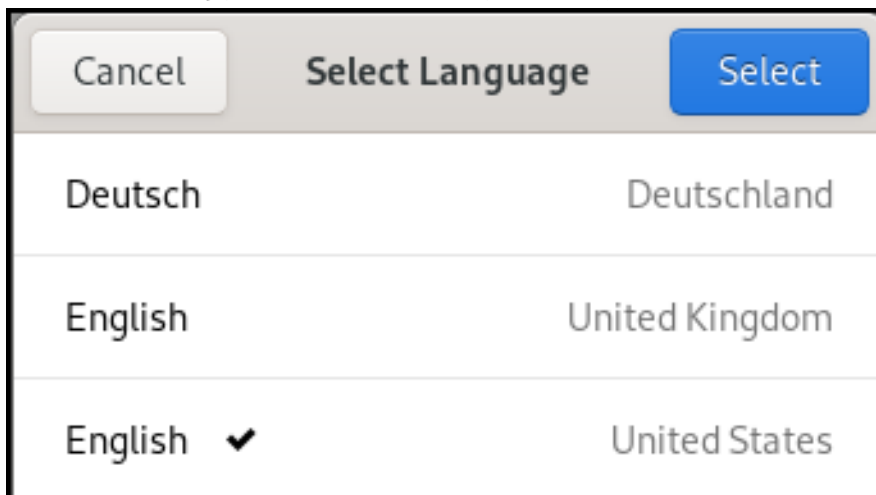
1. システムメニューから **Settings** アプリケーションのアイコンをクリックして開きます。



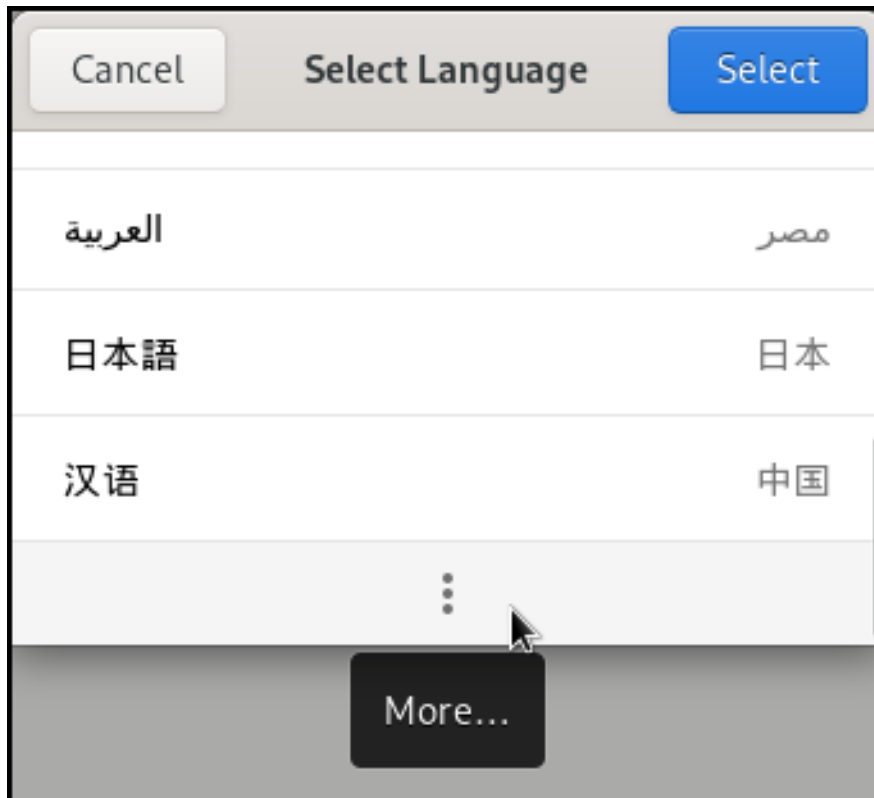
2. **Settings** で、左側のサイドバーから **Region & Language** を選択します。
3. **言語** メニューをクリックします。



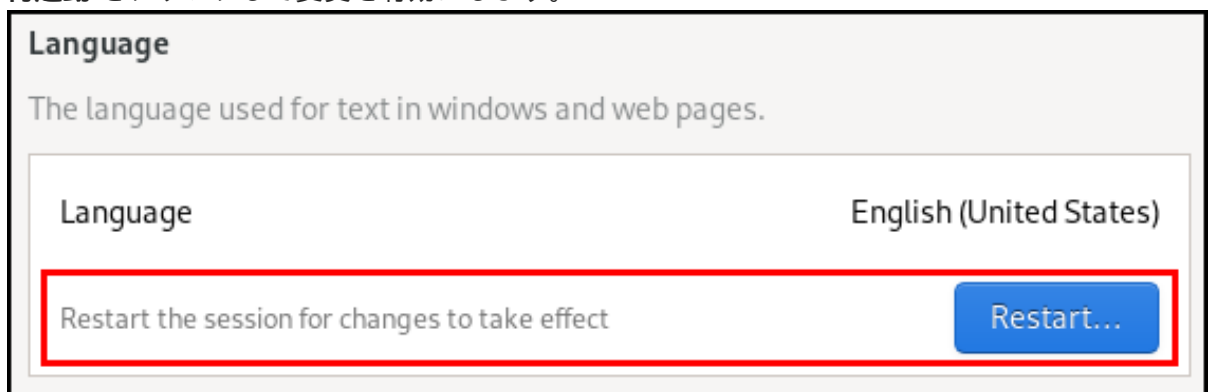
4. メニューから必要な地域および言語を選択します。



該当する地域および言語が表示されない場合はスクロールダウンし、**詳細** をクリックして、利用可能な地域および言語を選択します。



5. **完了** をクリックします。
6. **再起動** をクリックして変更を有効にします。



注記

アプリケーションによっては、特定の言語に対応していないものもあります。選択した言語に翻訳できないアプリケーションのテキストは、アメリカ英語のままになります。

関連情報

- [GNOME でのアプリケーションの起動](#)

第5章 ラップトップを閉じたときのシステム動作の変更

ラップトップを閉じると、デフォルトではバッテリーを節約するために一時停止します。この動作は好みに応じてカスタマイズできます。

WARNING

マシンによっては、特に狭いところに入れた状態でラップトップを閉じたまま作動させ続けると、オーバーヒートしてしまう場合があります。特に長時間閉じた状態でラップトップを作動させ続ける場合は、この設定を変更しても問題がないかどうかを検討してください。

前提条件

- 管理アクセスがある。

手順

1. `/etc/systemd/logind.conf` 設定ファイルを開きます。
2. `HandleLidSwitch=suspend` という行を探します。
3. 行が `#` 記号で始まる場合は、この記号を削除して設定を有効にします。
4. `suspend` を次のオプションのいずれかに置き換えます。
 - `poweroff`: コンピューターをシャットダウンします。
 - `lock`: 画面をロックします。
 - `ignore`: 何もしません。

たとえば、ラップトップを閉じたときに画面をロックするには、次の設定を使用します。

```
HandleLidSwitch=lock
```

5. 変更を保存してエディターを閉じます。

第6章 電源ボタンの動作の変更

コンピューターの電源ボタンを押すと、デフォルトではシステムが一時停止またはシャットダウンします。この動作は好みに応じてカスタマイズできます。

6.1. systemd の電源ボタンの動作を変更する

非グラフィカルな **systemd** ターゲットの電源ボタンを押すと、デフォルトではシステムがシャットダウンします。この動作は好みに応じてカスタマイズできます。

前提条件

- 管理アクセスがある。

手順

1. `/etc/systemd/logind.conf` 設定ファイルを開きます。
2. **HandlePowerKey=poweroff** という行を探します。
3. 行が **#** 記号で始まる場合は、この記号を削除して設定を有効にします。
4. **poweroff** を次のオプションのいずれかに置き換えます。

poweroff

コンピューターをシャットダウンします。

reboot

システムを再起動します。

halt

システムの停止を開始します。

kexec

kexec の再起動を開始します。

suspend

システムをサスペンドします。

hibernate

システムのハイバネートを開始します。

ignore

なにもしない

たとえば、電源ボタンを押したときにシステムを再起動するには、次の設定を使用します。

```
HandlePowerKey=reboot
```

5. 変更を保存してエディターを閉じます。

次のステップ

- グラフィカルセッションを使用する場合は、GNOME の電源ボタンも設定します。 [「GNOME の電源ボタンの動作を変更する」](#) を参照してください。

6.2. GNOME の電源ボタンの動作を変更する

グラフィカルログイン画面またはグラフィカルユーザーセッションで電源ボタンを押すと、デフォルトではマシンがサスペンドします。これはユーザーが物理的に電源ボタンを押した場合と、リモートコンソールから仮想の電源ボタンを押した場合の両方で起きます。電源ボタンの動作は、別のものを選択することもできます。

前提条件

- **systemd** の電源ボタンの動作を設定した。 [「systemd の電源ボタンの動作を変更する」](#) を参照してください。

手順

1. `/etc/dconf/db/local.d/01-power` ファイルに、システム全体の設定用のローカルデータベースを作成します。次の内容を入力します。

```
[org/gnome/settings-daemon/plugins/power]
power-button-action='suspend'
```

suspend を次の電源ボタンのアクションのいずれかに置き換えます。

nothing

何も実行しません。

suspend

システムをサスペンドします。

hibernate

システムをハイバネートします。

interactive

何を実行するかをユーザーに質問するポップアップクエリーを表示します。

interactive モードでは、電源ボタンを押すと 60 秒後にシステムの電源が自動的にオフになります。ただし、ポップアップクエリーとは異なる動作を選択することもできます。

2. オプション: ユーザーの設定をオーバーライドし、ユーザーが設定を変更できないようにします。`/etc/dconf/db/local.d/locks/01-power` ファイルに次の設定を入力します。

```
/org/gnome/settings-daemon/plugins/power/power-button-action
```

3. システムデータベースを更新します。

```
# dconf update
```

4. システム全体の設定を有効にするために、ログアウトして再度ログインします。

第7章 システムのセキュリティ分類の表示

システムのセキュリティ分類をユーザーに知らせる必要があるデプロイメントの管理者は、セキュリティ分類の通知を設定できます。永続的なバナーと一時的な通知のどちらかを、ログイン画面、GNOME セッション、およびロック画面に表示できます。

7.1. システムのセキュリティ分類バナーの有効化

システムの全体的なセキュリティ分類レベルを示す永続的な分類バナーを作成できます。これは、ログインしているシステムのセキュリティ分類レベルをユーザーに常に意識させる必要があるデプロイメントに役立ちます。

実行中のセッション、ロック画面、およびログイン画面で永続的な分類バナーを表示し、その背景色、フォント、および画面内の位置をカスタマイズできます。

この手順では、ログイン画面の上部と下部の両方に配置する、白い文字の赤いバナーを作成します。

手順

1. **gnome-shell-extension-classification-banner** パッケージをインストールします。

```
# dnf install gnome-shell-extension-classification-banner
```

2. 次のいずれかの場所に **99-class-banner** ファイルを作成します。

- ログイン画面で通知を設定するには、**/etc/dconf/db/gdm.d/99-class-banner** を作成します。
- ユーザーセッションで通知を設定するには、**/etc/dconf/db/local.d/99-class-banner** を作成します。

3. 作成したファイルに次の設定を入力します。

```
[org/gnome/shell]
enabled-extensions=['classification-banner@gnome-shell-extensions.gcampax.github.com']

[org/gnome/shell/extensions/classification-banner]
background-color='rgba(200,16,46,0.75)'
message='TOP SECRET'
top-banner=true
bottom-banner=true
system-info=true
color='rgb(255,255,255)'
```



警告

この設定は、[システムセキュリティ分類の通知](#) など拡張機能も有効にする同様の設定ファイルをオーバーライドします。

複数の拡張機能を有効にするには、**enabled-extensions** リストでそのすべてを指定します。以下に例を示します。

```
enabled-extensions=['heads-up-display@gnome-shell-extensions.gcampax.github.com', 'classification-banner@gnome-shell-extensions.gcampax.github.com']
```

4. **dconf** データベースを更新します。

```
# dconf update
```

5. システムを再起動します。

トラブルシューティング

- 既存のユーザーの分類バナーが表示されない場合は、ユーザーとしてログインし、**Extensions** アプリケーションを使用して **分類バナー** 拡張機能を有効にします。

7.2. システムのセキュリティ分類の通知

オーバーレイバナーに定義済みのメッセージを含む通知を設定できます。これは、ログイン前にシステムのセキュリティ分類をユーザーに知らせる必要があるデプロイメントに役立ちます。

設定に応じて、通知はログイン画面、ログイン後、ロック画面、または長時間ユーザーアクティビティがない場合に表示されます。通知が表示されたら、いつでも閉じることができます。

手順

1. **gnome-shell-extension-heads-up-display** パッケージをインストールします。

```
# dnf install gnome-shell-extension-heads-up-display
```

2. 次のいずれかの場所に **99-hud-message** ファイルを作成します。

- ログイン画面で通知を設定するには、**/etc/dconf/db/gdm.d/99-hud-message** を作成します。
- ユーザーセッションで通知を設定するには、**/etc/dconf/db/local.d/99-hud-message** を作成します。

3. 作成したファイルに次の設定を入力します。

```
[org/gnome/shell]
enabled-extensions=['heads-up-display@gnome-shell-extensions.gcampax.github.com']
```

```
[org/gnome/shell/extensions/heads-up-display]
message-heading="Security classification title"
message-body="Security classification description"
# The following options control when the notification appears:
show-when-locked=true
show-when-unlocking=true
show-when-unlocked=true
```

以下の値を、システムのセキュリティー分類を記述するテキストに置き換えます。

Security classification title

セキュリティー分類を示す簡単な見出し。

Security classification description

さまざまなガイドラインへの参照など、追加情報を提供する長いメッセージ。



警告

この設定は、[システムのセキュリティー分類バナーの有効化](#) など、拡張機能も有効にする同様の設定ファイルをオーバーライドします。

複数の拡張機能を有効にするには、**enabled-extensions** リストでそのすべてを指定します。以下に例を示します。

```
enabled-extensions=['heads-up-display@gnome-shell-
extensions.gcampax.github.com', 'classification-banner@gnome-shell-
extensions.gcampax.github.com']
```

4. **dconf** データベースを更新します。

```
# dconf update
```

5. システムを再起動します。

トラブルシューティング

- 既存のユーザーの通知が表示されない場合は、ユーザーとしてログインし、**Extensions** アプリケーションを使用して **Heads-up ディスプレイメッセージ** 拡張機能を有効にします。

第8章 すべてのユーザーに対するデフォルトのデスクトップセッションの設定

ログインしていないすべてのユーザーに対して事前に選択されているデフォルトのデスクトップセッションを設定できます。

ユーザーがデフォルト以外のセッションを使用してログインしても、選択した内容は次回のログイン時に持続します。

手順

1. 設定ファイルテンプレートをコピーします。

```
# cp /usr/share/accountsservice/user-templates/standard \
/etc/accountsservice/user-templates/standard
```

2. 新しい `/etc/accountsservice/user-templates/standard` を編集します。 `Session=gnome` の行で、 `gnome` を、デフォルトとして設定するセッションに置き換えます。
3. オプション: 特定のユーザーのデフォルトセッションの例外を設定するには、以下の手順に従います。
 - a. テンプレートファイルを `/var/lib/AccountsService/users/user-name` にコピーします。

```
# cp /usr/share/accountsservice/user-templates/standard \
/var/lib/AccountsService/users/user-name
```

- b. 新しいファイルで、 `${USER}` や `${ID}` などの変数を、ユーザーの値に置き換えてください。
- c. `Session` の値を編集します。

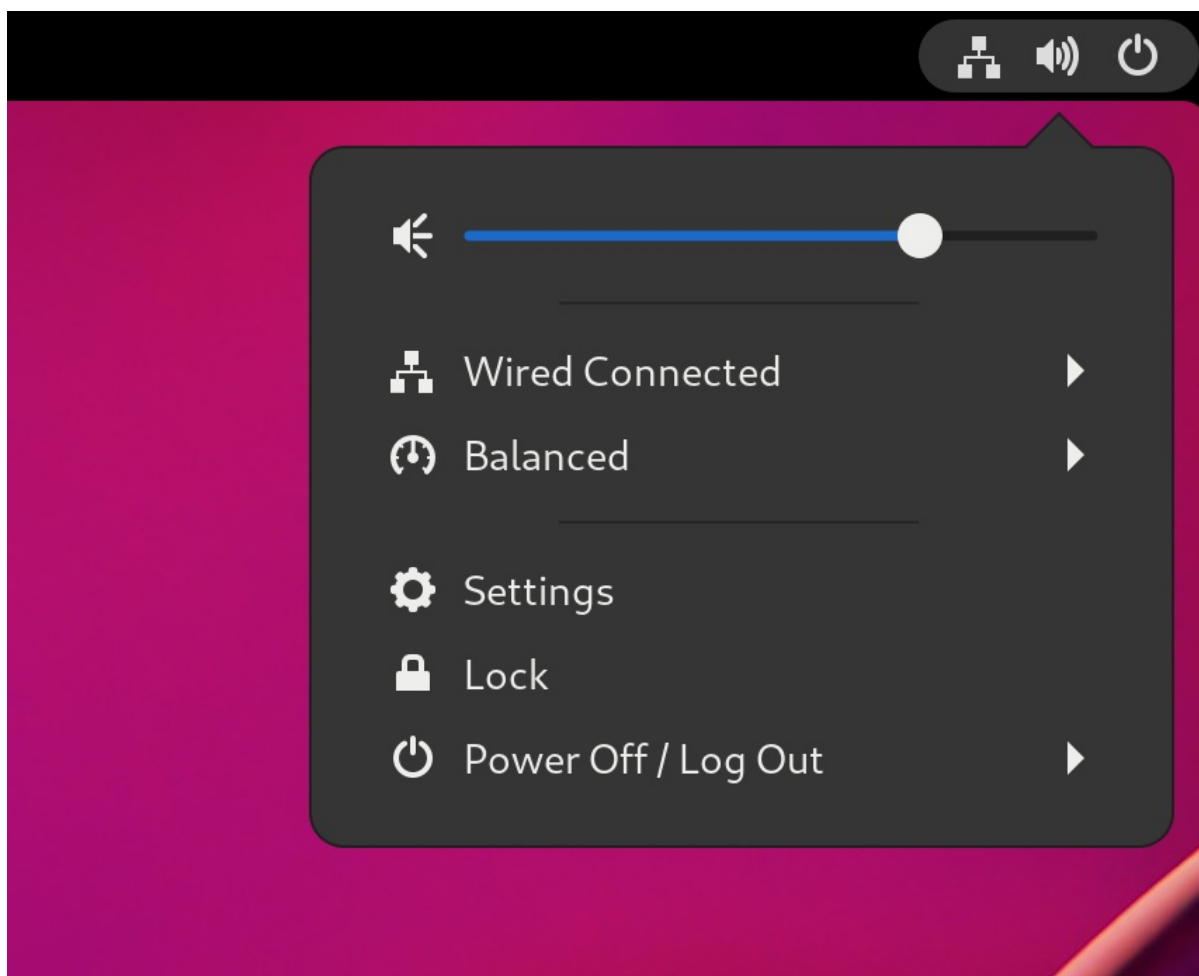
第9章 プリンターのセットアップ

GNOME では、**設定** アプリケーションを使用して印刷を設定できます。

9.1. GNOME でのプリンター設定へのアクセス

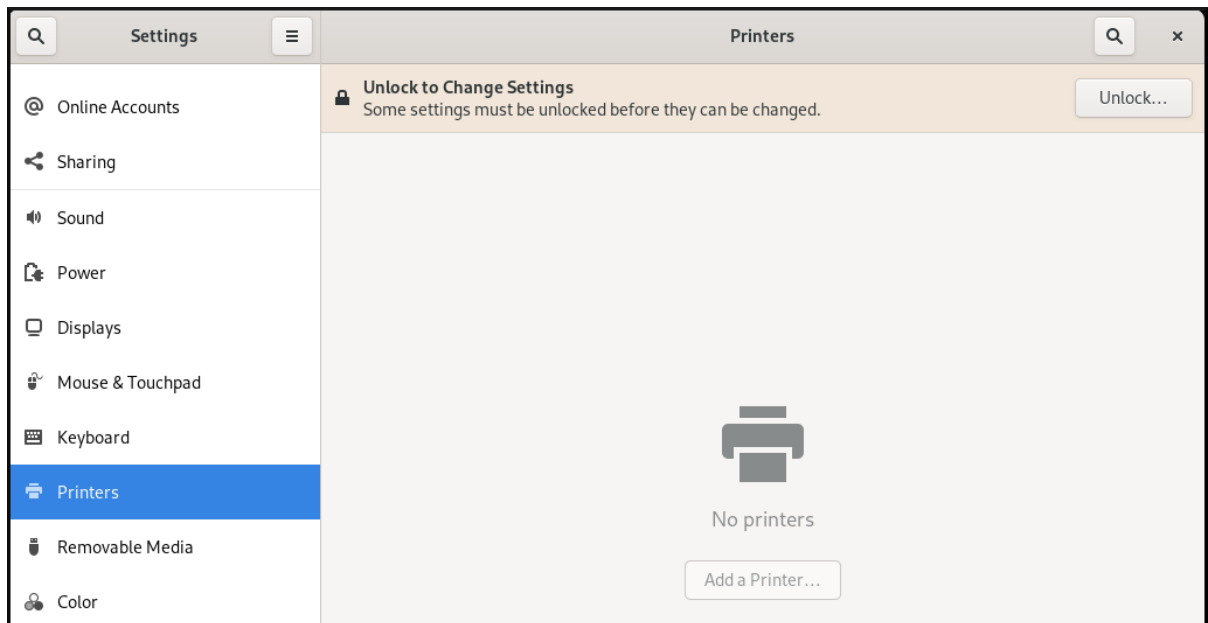
手順

1. **アプリケーションの起動** で説明されている方法のいずれかを使用して、**設定** アプリケーションを起動します。
さらに、"Settings" アイコンをクリックして、右上隅の **system menu** から **Settings** アプリケーションを起動することもできます。



2. **Settings** アプリケーションの GUI が表示されたら、**Printers** に移動します。

図9.1 GNOME コントロールセンター設定ツール



9.2. 設定で新しいプリンターを追加する

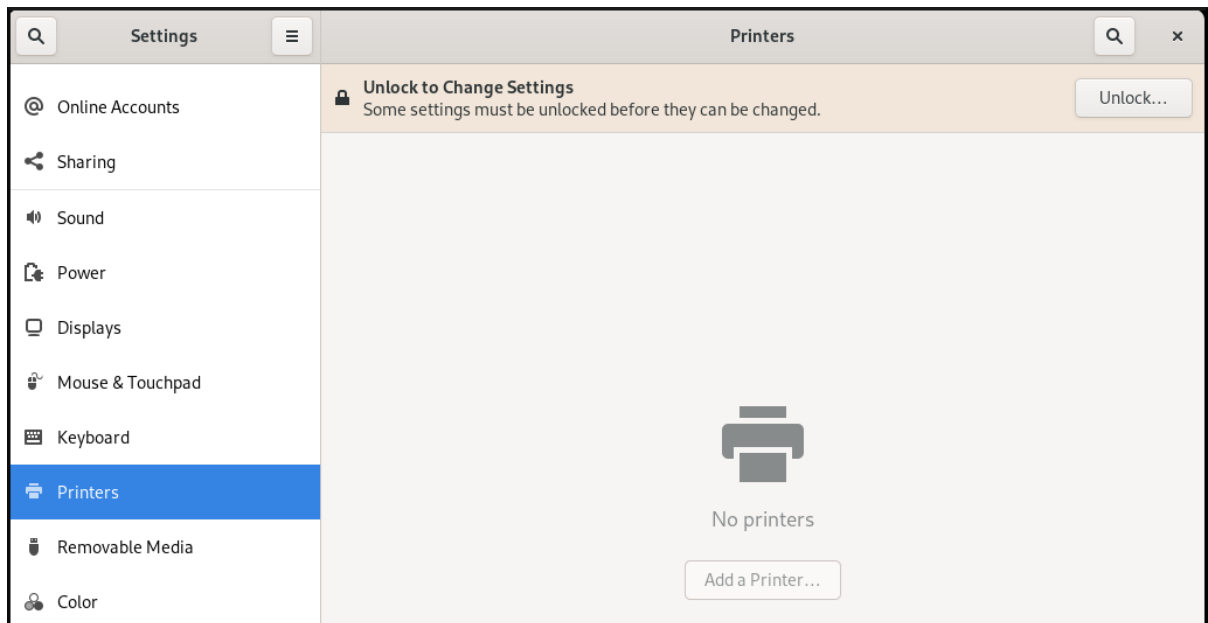
Settings アプリケーションを使用して、新しいプリンターを追加できます。

前提条件

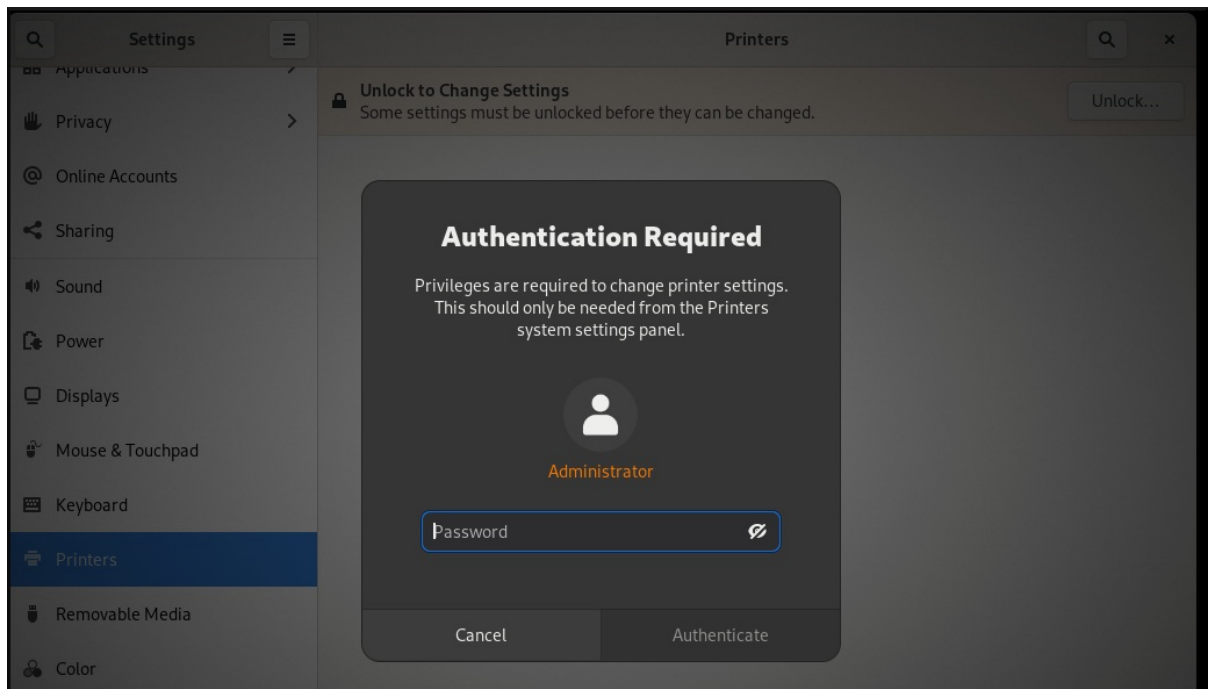
- **Printers** 画面の右上隅近くに表示される **Unlock** ボタンをクリックし、次のいずれかのユーザーとして認証します。
 - スーパーユーザー
 - **sudo** で与えられる管理者アクセスを持つユーザー (**/etc/sudoers** に記載されているユーザー)
 - **/etc/group** 内の **printadmin** グループに属するすべてのユーザー

手順

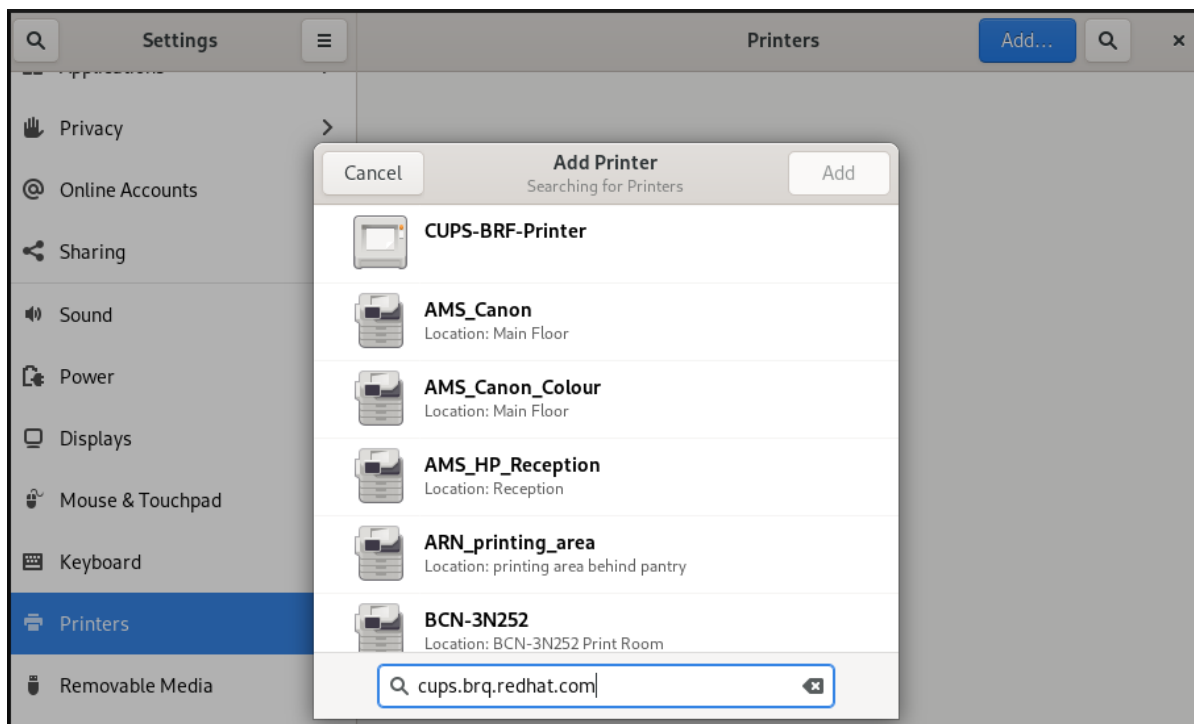
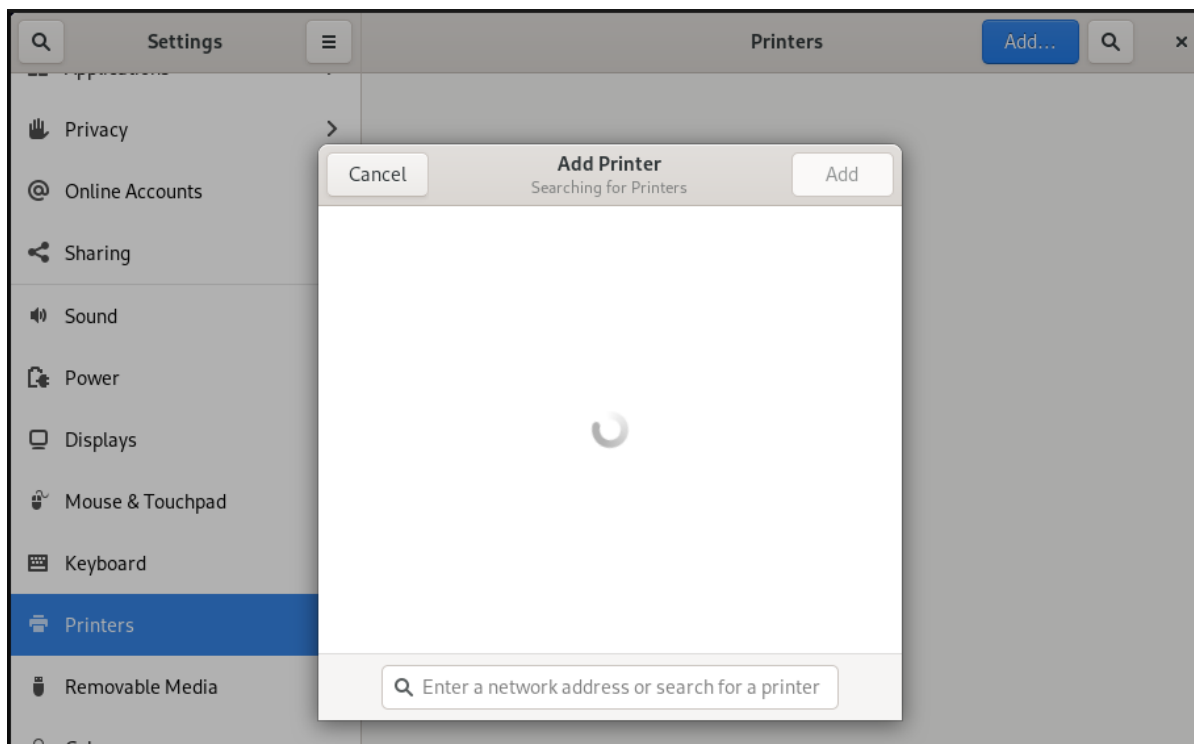
1. **Printers** ダイアログを開きます。



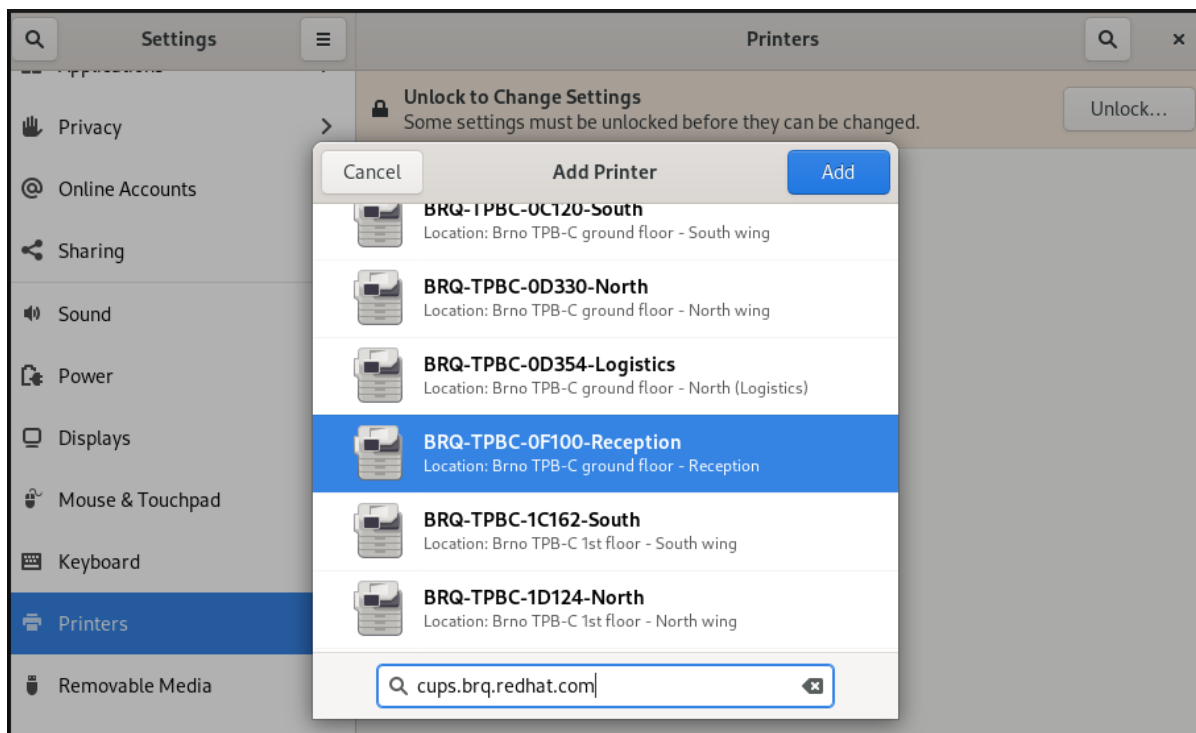
2. **Unlock** と **authenticate** をクリックします。



3. 利用可能なプリンター (ネットワークプリンターも含む) の中から1つを選択するか、プリンターサーバーのプリンター IP アドレスまたはホスト名を入力します。



4. 右上隅にある **Add** をクリックして、選択内容を確認します。



9.3. 設定でテストページを印刷する

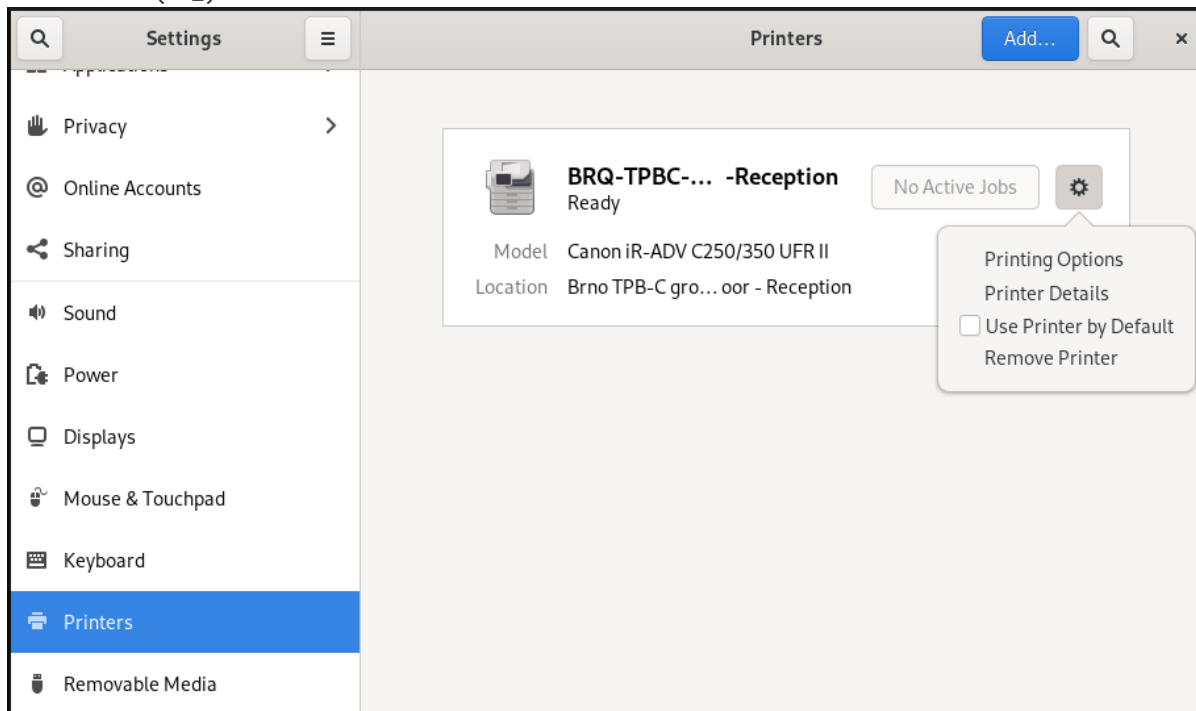
テストページを印刷して、プリンターが正しく機能することを確認できます。

前提条件

- プリンターが設定されている。

手順

1. 右側の設定 (⚙️) ボタンをクリックし、選択したプリンターの設定メニューを表示します。



2. Printing Options → Test Page をクリックします。

第10章 プリンター設定の変更

GNOME では、**設定** アプリケーションを使用してプリンター設定を変更できます。

前提条件

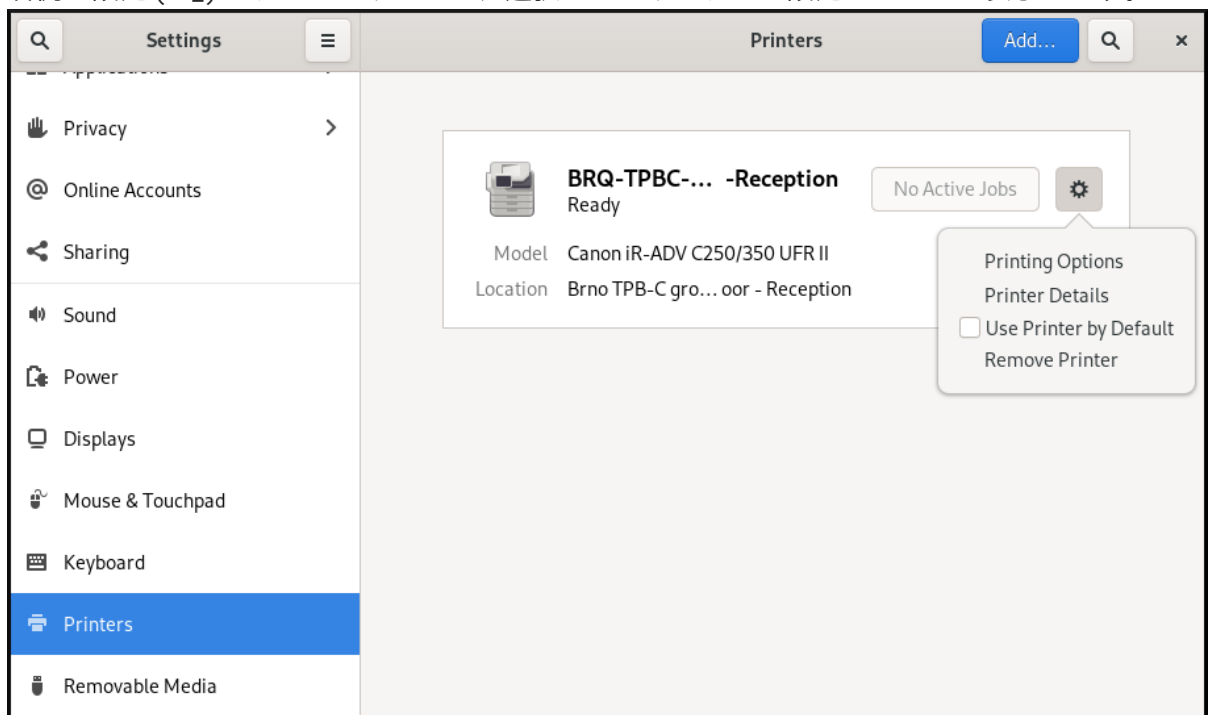
- [GNOME でのプリンター設定へのアクセス](#) の手順に従って、印刷をセットアップするための設定を開始しました。

10.1. プリンターの詳細の表示および編集

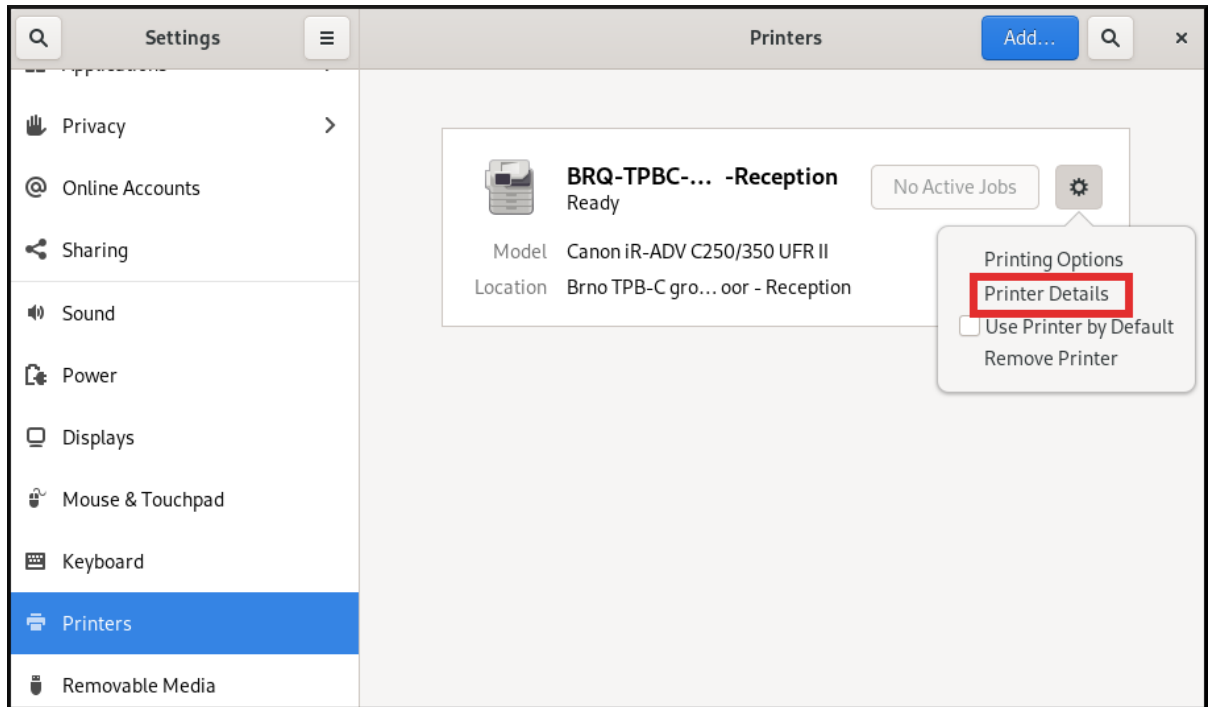
プリンターの設定を管理するには、**Settings** アプリケーションを使用します。

手順

1. 右側の設定 (⚙️) ボタンをクリックし、選択したプリンターの設定メニューを表示します。



2. **プリンターの詳細** をクリックして、選択したプリンターの設定の表示と編集を行います。



このメニューでは、次のアクションを選択できます。

ドライバーの検索

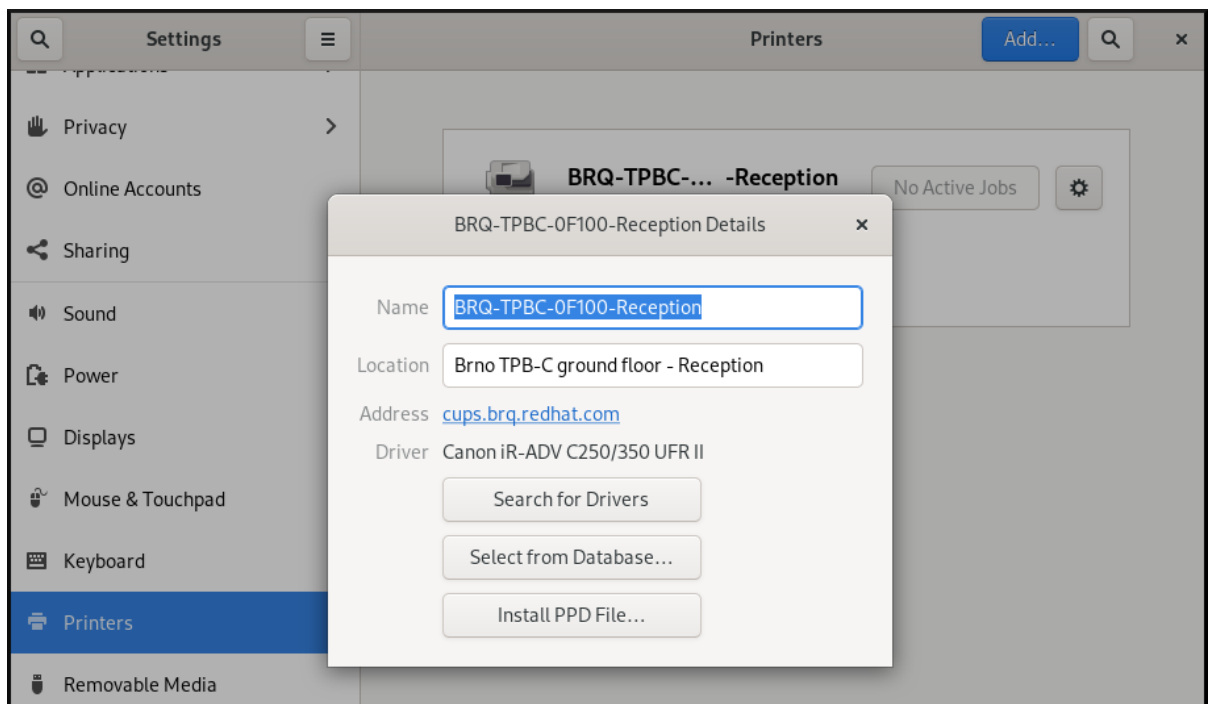
GNOME コントロールセンターは、利用可能なレポジトリーで、適切なドライバーを検索する **PackageKit** と通信します。

データベースから選択

このオプションでは、システムにインストールされているデータベースから適切なドライバーを選択します。

PPD ファイルのインストール

このオプションでは、プリンターのドライバーとして使用できる、利用可能な PPD (Postscript Printer Description) のリストから選択できます。

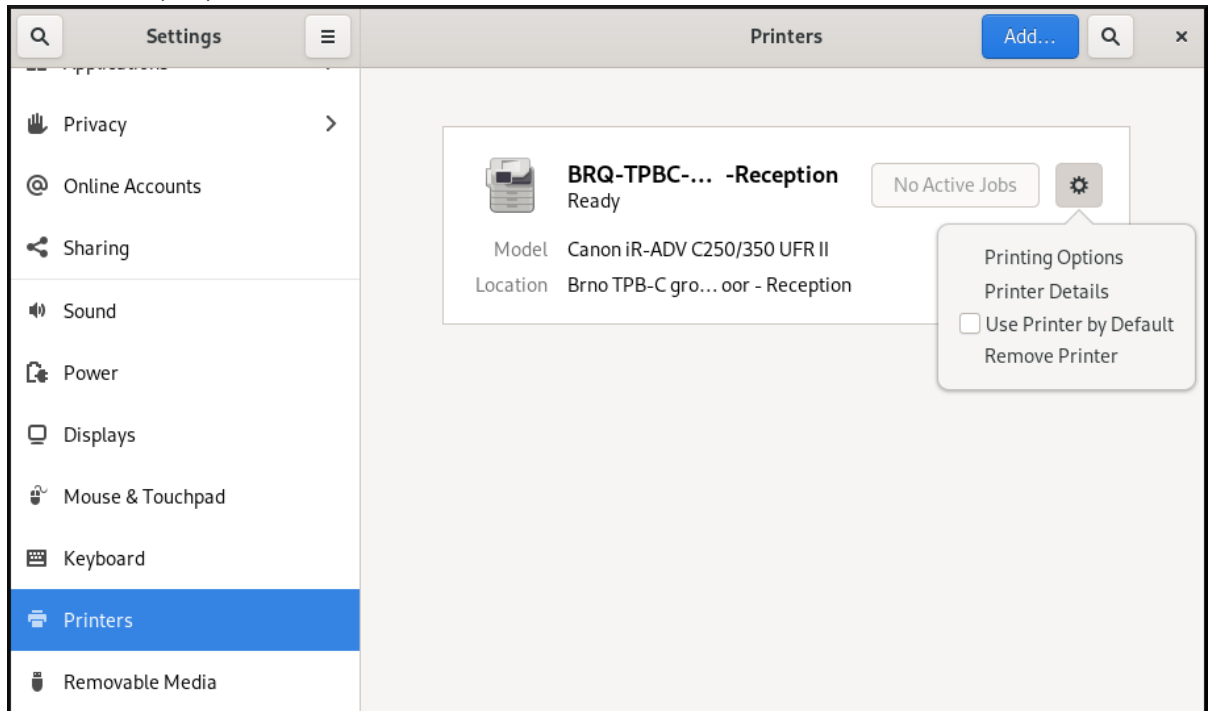


10.2. デフォルトプリンターの設定

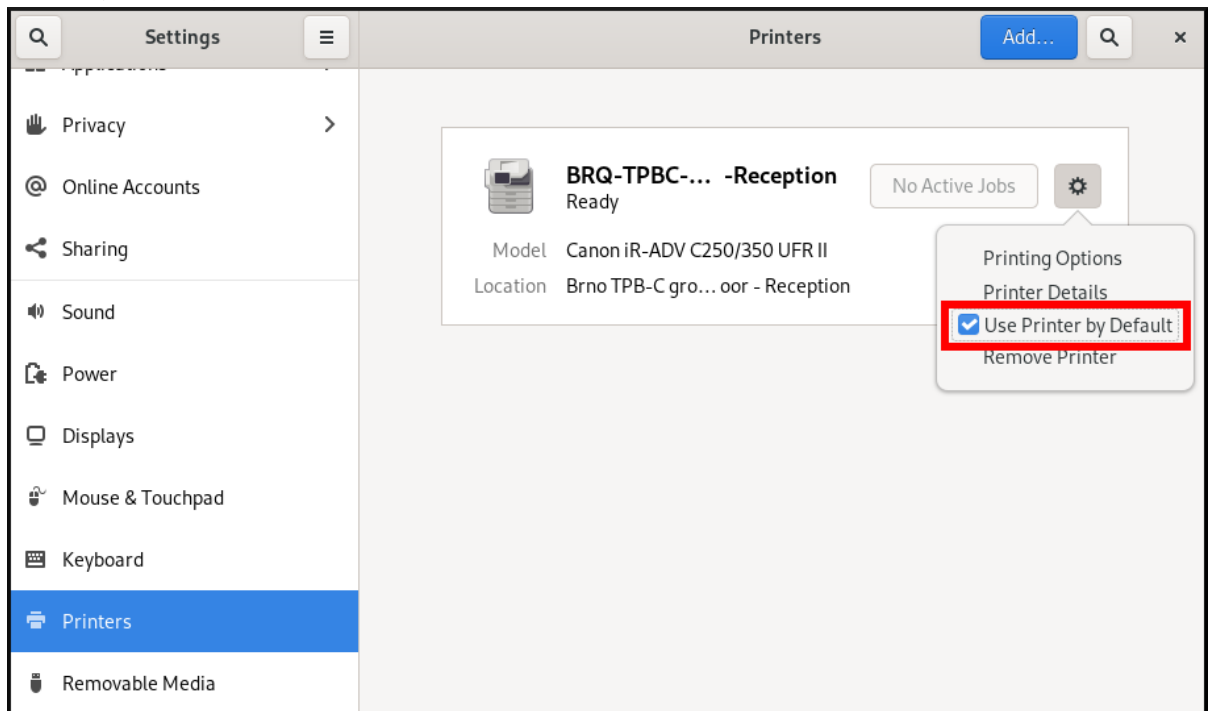
選択したプリンターをデフォルトのプリンターとして設定できます。

手順

1. 右側の設定 (⚙️) ボタンをクリックし、選択したプリンターの設定メニューを表示します。



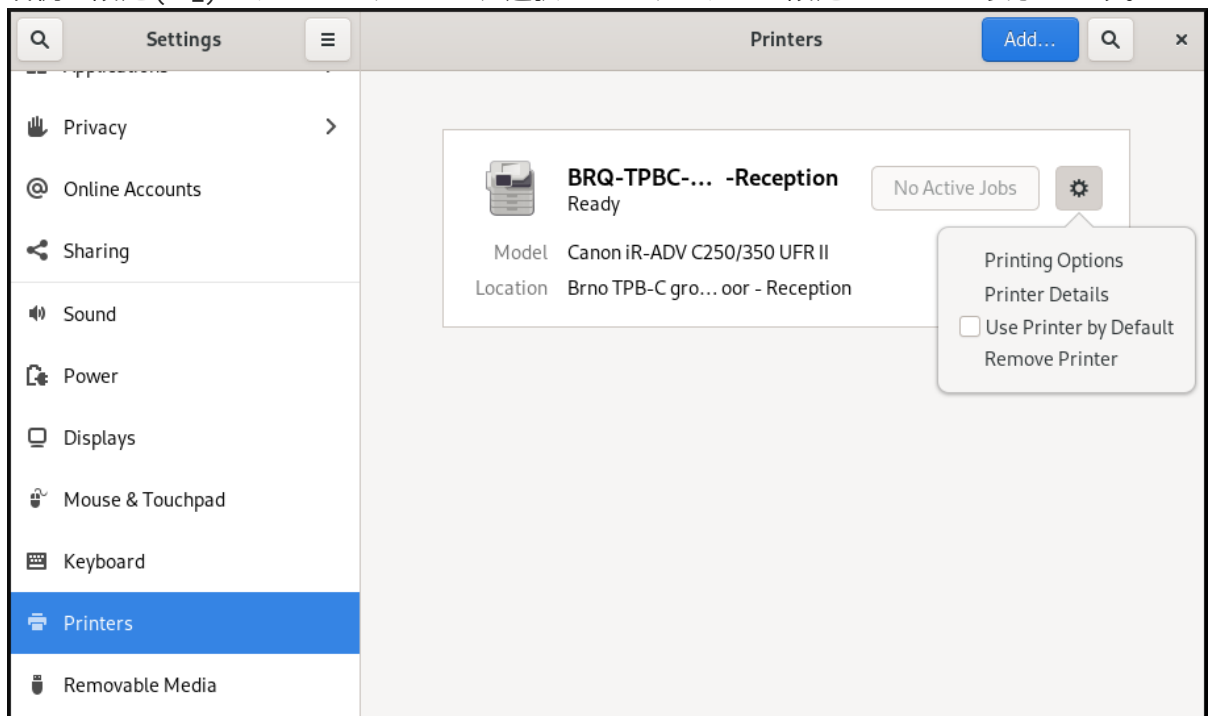
2. **デフォルトでプリンターを使用** をクリックして、選択したプリンターをデフォルトプリンターとして設定します。



10.3. 印刷オプションの設定

手順

1. 右側の設定 (⚙️) ボタンをクリックし、選択したプリンターの設定メニューを表示します。



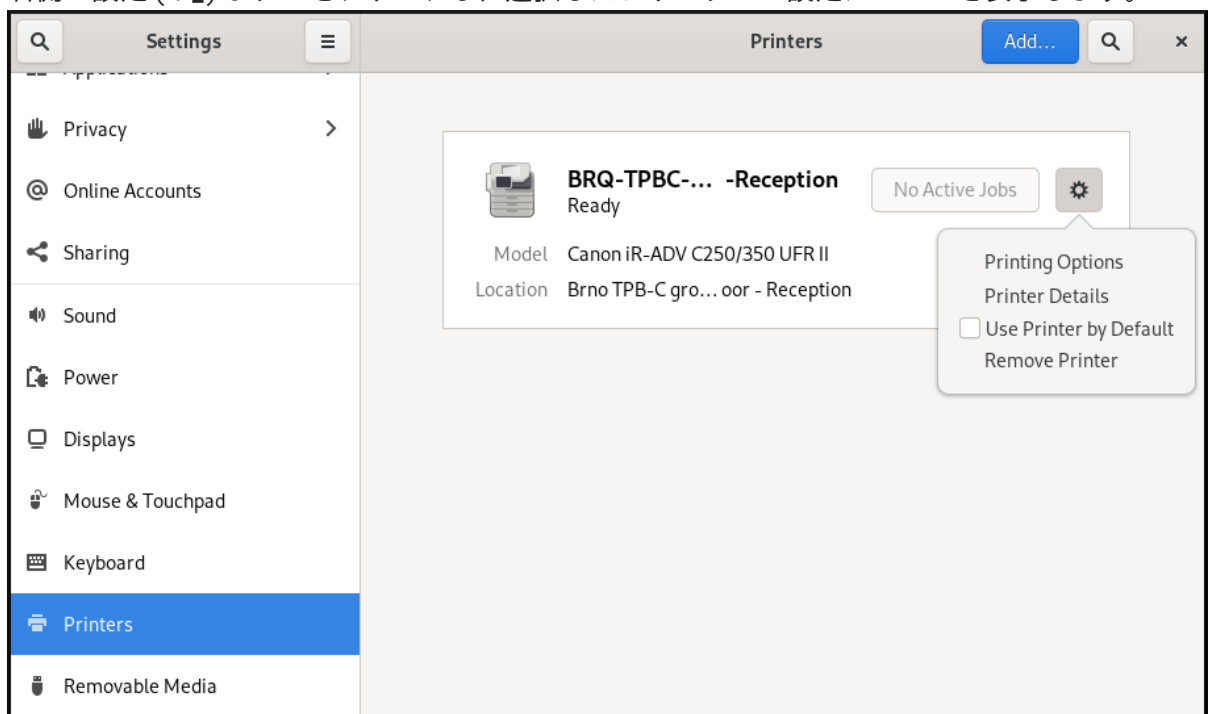
2. 印刷オプション をクリックします。

10.4. プリンターの削除

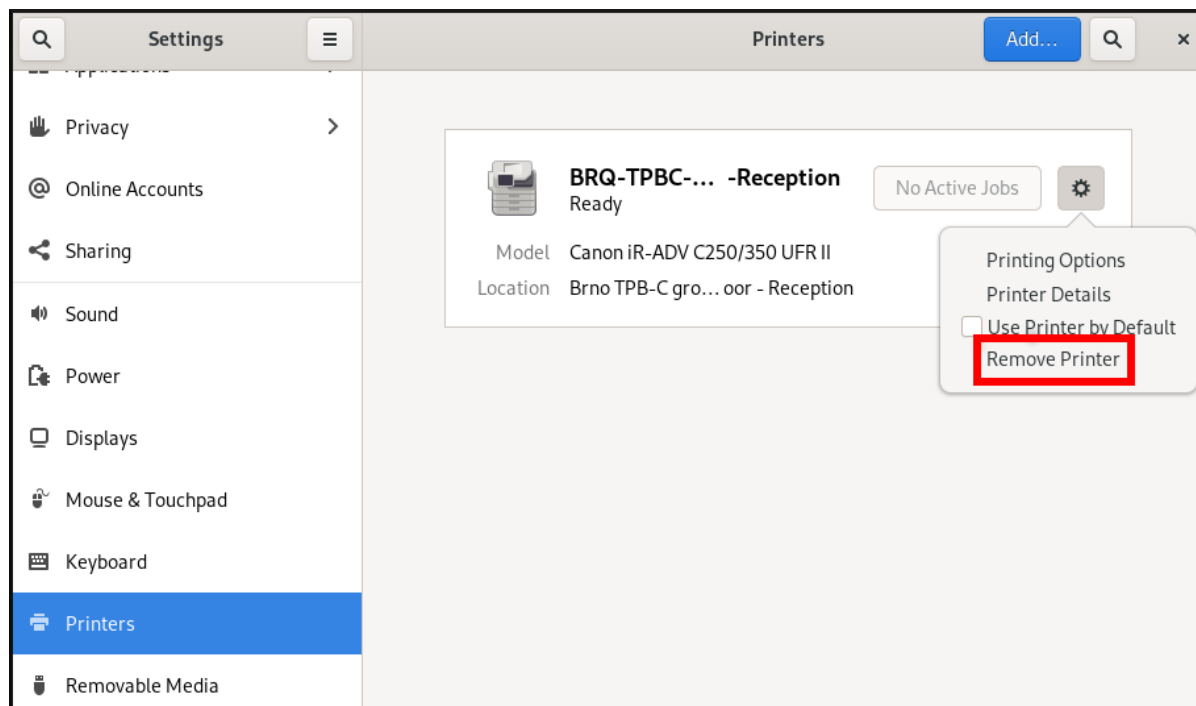
Settings アプリケーションを使用してプリンターを削除できます。

手順

1. 右側の設定 (⚙️) ボタンをクリックし、選択したプリンターの設定メニューを表示します。



2. プリンターの削除 をクリックして、選択したプリンターを削除します。



第11章 ネットワーク共有上のファイルの閲覧

サーバーが提供するネットワーク共有に接続し、ローカルファイルのようにサーバー上のファイルを閲覧できます。ファイルブラウザを使用してファイルをダウンロードまたはアップロードできます。

11.1. ネットワーク共有の GVFS URI 形式

GNOME は GVFS URI 形式を使用して、ネットワーク共有およびそれら上のファイルを参照します。GNOME からネットワーク共有に接続する場合は、次の形式でネットワーク共有のアドレスを指定します。

URL (Uniform Resource Locator) は、ネットワーク上のファイルの場所を参照するアドレス形式です。アドレスは以下のようになります。

基本的な GVFS URI 形式には、以下の構文を使用します。

protocol://server.example.com/folder/file

スキームは、プロトコルまたはサーバーのタイプを指定します。アドレスの example.com 部分はドメイン名と呼ばれます。ユーザー名が必要な場合は、サーバー名の前に挿入されます。

また、ネットワーク共有にユーザー名またはポート番号を指定することもできます。

protocol://user@server.example.com:port/folder/file

表11.1 一般的なネットワーク共有プロトコル

プロトコル	GVFS URI の例
SSH	ssh://user@server.example.com/path
NFS	nfs://server/path
Windows SMB	smb://server/Share
WebDAV	dav://example.server.com/path
パブリック FTP	ftp://ftp.example.com/path
認証済み FTP	ftp://user@ftp.example.com/path

関連情報

- [GVFS システム](#)
- [GVFS URI 文字列の形式](#)

11.2. GNOME でのストレージボリュームのマウント

ローカルストレージボリュームまたはネットワーク共有を Files アプリケーションに手動でマウントできます。

手順

1. **Files** アプリケーションを開きます。
2. サイドバーの **Other Locations** をクリックします。
ウィンドウには、接続されているすべてのストレージボリュームと、ローカルエリアネットワークで公開されているすべてのネットワーク共有が一覧表示されます。

このリストにボリュームまたはネットワーク共有が表示される場合は、項目をクリックしてマウントします。

別のネットワーク共有に接続する場合は、以下の手順に従います。

3. **Connect to Server** フィールドで、GVFS URI 文字列をネットワーク共有に入力します。
4. **Connect** を押します。
5. ダイアログでログイン認証情報の入力を求められた場合は、関連するフィールドに名前とパスワードを入力します。
6. マウントプロセスが完了すると、ボリュームまたはネットワーク共有のファイルを参照できます。

11.3. GNOME でのストレージボリュームのアンマウント

Files アプリケーションのストレージボリューム、ネットワーク共有、または別のリソースをアンマウントできます。

手順

1. **Files** アプリケーションを開きます。
2. サイドバーで、選択したマウントの横にある **Unmount** アイコン (⏏) をクリックします。
3. サイドバーからマウントが消えるか、安全な削除に関する通知が表示されるまで待ちます。

11.4. 関連情報 (または次の手順)

- [GNOME でのストレージボリュームの管理](#)
- [NFS 共有のマウント](#)
- [Red Hat Enterprise Linux での SMB 共有のマウント](#)

第12章 GNOME でのストレージボリュームの管理

このセクションでは、仮想ファイルシステムを使用して GNOME でストレージボリュームを管理する方法を説明します。GNOME 仮想ファイルシステム (GVFS) は、GNOME デスクトップを構築するライブラリーが提供する仮想ファイルシステムインターフェイスの拡張です。

12.1. GVFS システム

GVFS は完全な仮想ファイルシステムインフラストラクチャーを提供し、GNOME デスクトップのストレージを処理します。これは、Web ブラウザーの URL アドレスと構文的に似た URI (Uniform Resource Identifier) 標準仕様に基いて完全識別のアドレスを使用します。この、**schema://user@server/path** 形式のアドレスは、サービスの種類を決定する主要な情報です。

GVFS はリソースをマウントするのに役立ちます。これらのマウントは複数のアプリケーション間で共有されます。リソースは実行中のデスクトップセッション内でグローバルに追跡されます。つまり、マウントをトリガーしたアプリケーションを終了した場合でも、他のアプリケーションで引き続き使用できます。複数のアプリケーションは、バックエンドによって制限されない限り、マウントに同時にアクセスできます。設計によるプロトコルによっては、許可されたチャンネルは1つのみになります。

GVFS は、リムーバブルメディアを `/run/media/` ディレクトリーにマウントします。

12.2. GVFS URI 文字列の形式

バックエンドサービスを使用するには、URI 文字列を作成する必要があります。この文字列は GVFS で使用される基本的な識別子で、サービスのタイプ、バックエンド ID、絶対パス、または必要に応じてユーザー名などの一意な識別に必要なすべての情報が含まれます。この情報は、**Files** アドレスバーと GTK+ のオープンダイアログまたは保存ダイアログに表示されます。

次の例は、非常に基本的な形式の URI 文字列であり、**ftp.myserver.net** ドメインで実行しているファイル転送プロトコル (FTP) サーバーのルートディレクトリー (`/`) を指します。

例12.1例: ルート FTP ディレクトリーを参照する URI 文字列

```
ftp://ftp.myserver.net/
```

例12.2 FTP 上のテキストファイルを指す URI 文字列

```
ssh://joe@ftp.myserver.net/home/joe/todo.txt
```

12.3. GNOME でのストレージボリュームのマウント

ローカルストレージボリュームまたはネットワーク共有を **Files** アプリケーションに手動でマウントできます。

手順

1. **Files** アプリケーションを開きます。
2. サイドバーの **Other Locations** をクリックします。

ウィンドウには、接続されているすべてのストレージボリュームと、ローカルエリアネットワークで公開されているすべてのネットワーク共有が一覧表示されます。

このリストにボリュームまたはネットワーク共有が表示される場合は、項目をクリックしてマウントします。

別のネットワーク共有に接続する場合は、以下の手順に従います。

3. **Connect to Server** フィールドで、GVFS URI 文字列をネットワーク共有に入力します。
4. **Connect** を押します。
5. ダイアログでログイン認証情報の入力を求められた場合は、関連するフィールドに名前とパスワードを入力します。
6. マウントプロセスが完了すると、ボリュームまたはネットワーク共有のファイルを参照できません。

12.4. GNOME でのストレージボリュームのアンマウント

Files アプリケーションのストレージボリューム、ネットワーク共有、または別のリソースをアンマウントできます。

手順

1. **Files** アプリケーションを開きます。
2. サイドバーで、選択したマウントの横にある **Unmount** アイコン (⏏) をクリックします。
3. サイドバーからマウントが消えるか、安全な削除に関する通知が表示されるまで待ちます。

12.5. ファイルシステムの GVFS マウントへのアクセス

GVFS 仮想ファイルシステムのメインデーモンである FUSE について詳しく説明します。

GIO ライブラリーでビルドされたアプリケーションは、GVFS マウントにアクセスできます。さらに、GVFS はアクティブな GVFS マウントを公開する FUSE デーモンを提供します。すべてのアプリケーションは、マウントが通常のファイルシステムであるかのように標準の POSIX API を使用してアクティブな GVFS マウントにアクセスできます。

特定のアプリケーションでは、追加のライブラリー依存関係と新しい仮想ファイルシステム (VFS) サブシステムの詳細が不安定または複雑ではない可能性があります。このような理由から、また互換性を強化するために、GVFS は FUSE (File System in Userspace) デーモンを提供します。これは、標準の Portable Operating System Interface (POSIX) アクセス用にマウントを介してアクティブなマウントを公開します。このデーモンは、受信要求を透過的に変換して、アプリケーションのローカルファイルシステムを模倣します。



重要

アプリケーションと GVFS バックエンドの特定の組み合わせで問題が発生する可能性があります。

FUSE デーモンは、メインの **gvfs** デーモンで自動的に起動し、フォールバックとして `/run/user/UID/gvfs/` または `~/.gvfs/` ディレクトリーのいずれかにボリュームをマウントします。

手動による参照では、各 GVFS マウントの個別のディレクトリーが表示されます。変換されたパスは、ネイティブでないアプリケーションで GVFS の場所からドキュメントを開く際に引数として渡されます。ネイティブ GIO アプリケーションは、このパスをネイティブ URI に自動的に変換することに注意してください。

12.6. 利用可能な GIO コマンド

GIO は、スクリプト作成やテストに役立つ可能性のある複数のコマンドを提供します。

以下は、対応する POSIX コマンドのセットです。

コマンド	説明
gio cat	ファイルの内容を表示します。
gio mkdir	新しいディレクトリーを作成します。
gio rename	ファイルの名前を変更します。
gio mount	gio マウント機能のさまざまな側面へのアクセスを提供します。
gio set	ファイルにファイル属性を設定します。
gio copy	ファイルのコピーを作成します。
gio list	ディレクトリーの内容をリスト表示します。
gio move	ファイルのある場所から別の場所に移動します。
gio remove	ファイルを削除します。
gio trash	ファイルまたはディレクトリーを ゴミ箱 に送ります。これは、ファイルの場所によって異なるフォルダーになる可能性があり、すべてのファイルシステムがこの概念に対応しているわけではありません。ファイルがユーザーのホームディレクトリー内にある一般的な状況では、ゴミ箱フォルダーは \$XDG_DATA_HOME/Trash になります。
gio info	指定の場所の情報を表示します。
gio save	標準入力から読み取り、データを指定の場所に保存します。
gio tree	指定した場所の内容をツリーのような形式で再帰的にリスト表示します。場所を指定しないと、デフォルトで現在のディレクトリーに設定されます。

追加のコマンドにより、GIO 固有の制御が強化されます。

コマンド	説明
gio monitor	ファイルまたはディレクトリの変更 (作成、削除、コンテンツおよび属性の変更、監視される場所に影響するマウントおよびマウント解除の操作など) を監視します。
gio mime	ハンドラーが指定されていない場合に、登録済みおよび推奨されるアプリケーションをリスト表示します。それ以外の場合は、これはデフォルトのハンドラーとして設定されます。
gio open	このタイプのファイルを処理するために登録されているデフォルトアプリケーションでファイルを開きます。



注記

ユーザーの利便性のため、**bash** 補完はパッケージの一部として提供されます。

これらのコマンドはすべてネイティブ GIO クライアントであるため、フォールバック FUSE デーモンを実行する必要はありません。この目的は、POSIX コマンドのドロップイン置換ではなく、実際にはスイッチの範囲はほとんどサポートされていません。基本的な形式では、このコマンドは URI 文字列をローカルパスではなく引数として取ります。

関連情報

- **gio(1)** の man ページ

12.7. サンプル GIO コマンド

次のセクションでは、GIO コマンドの使用例をいくつか示します。

例12.3 ローカルの /tmp ディレクトリ内のすべてのファイルをリスト表示します

```
$ gio list file:///tmp
```

例12.4 リモートシステムからのテキストファイルの内容をリスト表示します

```
$ gio cat ssh://joe@ftp.myserver.net/home/joe/todo.txt
```

例12.5 前のテキストファイルをローカルの /tmp ディレクトリにコピーします

```
$ gio copy ssh://joe@ftp.myserver.net/home/joe/todo.txt /tmp/
```

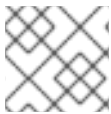
関連情報

- **gio** の man ページ

12.8. GVFS メタデータの概要

GVFS メタデータストレージは、情報を特定のファイルにバインドするキーと値のペアのセットとして実装されます。そのため、アイコンの位置、最後に再生された場所、ドキュメントの場所、メール、メモなど、ランタイム情報用に設計された小規模なデータを保存するためのユーザーまたはアプリケーション用のツールがあります。

ファイルまたはディレクトリーを移動するたびに、GVFS はメタデータを適宜移動し、メタデータがそれぞれのファイルに接続されている状態にします。GVFS はすべてのメタデータをプライベートに保存します。そのため、メタデータはそのマシンでのみ利用できます。ただし、GVFS はマウントおよびリムーバブルメディアも追跡します。



注記

GVFS は、リムーバブルメディアを `/run/media/` ディレクトリーにマウントします。

メタデータを表示し、操作するには、以下いずれかを使用します。

- **gio info** コマンド
- **gio set** コマンド
- 属性を操作する他のネイティブ GIO の方法。

関連情報

- **gio** の man ページ

12.9. カスタム GIO メタデータ属性の設定

この手順では、カスタムメタデータ属性を設定する方法を説明します。

特定の **gio info** 呼び出しと、移動または名前変更後のデータの永続性の違いに注意してください。 **gio info** コマンドの出力に注意してください。

手順

1. 空のファイルの作成:

```
$ touch /tmp/myfile
```

2. このファイルのメタデータを表示します。

```
$ gio info -a 'metadata::*' /tmp/myfile
uri: file:///tmp/myfile
attributes:
```

3. このファイルに文字列を設定します。

```
$ gio set -t string /tmp/myfile 'metadata::mynote' 'Please remember to delete this file!'
```

4. メタデータを表示します。

```
$ gio info -a 'metadata::*' /tmp/myfile
uri: file:///tmp/myfile
attributes:
  metadata::mynote: Please remember to delete this file!
```

5. このファイルを新しい場所に移動します。

```
$ gio move /tmp/myfile /tmp/newfile
```

6. メタデータを表示します。

```
$ gio info -a 'metadata::*' /tmp/newfile
uri: file:///tmp/newfile
attributes:
  metadata::mynote: Please remember to delete this file!
```

メタデータは、GIO API を使用してファイルを移動すると持続します。

関連情報

- `gio` の man ページ

12.10. GVFS マウントのパスワード管理

GVFS マウントの認証について詳しく説明します。

通常の GVFS マウントは、リソースが匿名認証を許可する場合、または認証を全く必要としない場合を除き、アクティベーション時に認証されます。

標準の GTK+ ダイアログでは、パスワードを保存するかどうかを選択できます。

永続ストレージを選択すると、パスワードはユーザーのキーリングに保存されます。**GNOME キーリング** は秘密鍵を保管するための一元的な場所になります。パスワードは暗号化され、ログイン時に提供されたパスワードを使用してデスクトップセッションの開始時に自動的にロック解除されます。別のパスワードで保護するには、最初に使用する時にパスワードを設定します。

Passwords および **Keys** アプリケーションは、保存されたパスワードと **GNOME キーリング** を管理するのに役立ちます。これにより、個別のレコードの削除やパスワードの変更が可能になります。

12.11. GVFS バックエンド

GVFS のバックエンドは、特定タイプのリソースへのアクセスを提供します。このセクションでは、使用可能な GVFS バックエンドとその仕様のリストを提供します。



注記

一部のバックエンドは別個にパッケージ化され、デフォルトではインストールされません。追加のバックエンドのインストールについては、**dnf** パッケージマネージャーを使用します。

表12.1 利用可能なバックエンド

バックエンド	説明
admin	ローカルファイルシステムへの管理者アクセスを提供します。
burn	アプリケーションが新しい CD、DVD、または BD のメディアコンテンツの一時ストレージとして使用する仮想バックエンド。
cdda	別の Waveform Audio File Format (WAV) ファイルでオーディオ CD を公開します。
computer	アクティブなマウントと物理ボリュームを統合している仮想バックエンド。signpost と同様の動作になります。以前は、Files が Computer ビューに使用していました。
dav、davs	セキュアなバリエーションを含む WebDAV クライアント。認証はマウント時にのみ可能です。バックエンドは、後の、フォルダーごとの再認証をサポートしていません。
dns-sd	DNS サービスディスカバリー:ネットワークブラウジング中に使用される Avahi クライアントは、検出されたサービスへの永続的な URI を形成します。
ftp	完全機能の File Transfer Protocol (FTP) クライアント。デフォルトでは、パッシブ転送に対応します。また、 ftps (明示的モード) および ftpis (暗黙的モード) のスキームでセキュアなモードを処理します。
gphoto2	USB または FireWire が割り当てたカメラにアクセスするための PTP (Postformal Transfer Protocol) クライアント。
google	Google ドライブへのアクセスを提供します。Google Drive アカウントは、 Online Accounts 設定で設定する必要があります。
http	すべての HTTP リクエストを処理します。クライアントアプリケーションで Web からファイルを簡単にダウンロードするのに便利です。
locatest	file:// URI をプロキシする単純なテストバックエンド。バックエンドはエラー挿入に対応します。
mtp	メディアプレーヤーおよびスマートフォンのメモリーにアクセスするためのメディア転送プロトコルバックエンド (MTP)。
network	Window Network を参照し、Avahi で検出された共有を表示できるようにします。
recent	GNOME アプリケーションで使用される最近のファイルをリスト表示するには、ファイル選択ダイアログでバックエンドを使用します。
sftp	完全機能の SSH ファイル転送プロトコル (SFTP) クライアント。
smb	Samba および Windows 共有にアクセスします。

バックエンド	説明
trash	削除されたファイルを復元できるゴミ箱のバックエンド。

第13章 GNOME でのボリューム管理のトラブルシューティング

以下は、GNOME でのボリューム管理の一般的なエラーと、その解決方法です。

13.1. 非 GIO クライアントから GVFS の場所へのアクセスに関するトラブルシューティング

アプリケーションから GVFS の場所へアクセスする際に問題がある場合は、ネイティブ GIO クライアントではない可能性があります。通常、ネイティブ GIO クライアントは GNOME ライブラリー (**glib**、**gio**) を使用するすべての GNOME アプリケーションです。**gvfs-fuse** サービスは、GIO 以外のクライアントのフォールバックとして提供されます。

前提条件

- **gvfs-fuse** パッケージがインストールされます。

```
$ dnf install gvfs-fuse
```

手順

1. **gvfs-fuse** が実行されていることを確認します。

```
$ ps ax | grep gvfsd-fuse
```

gvfs-fuse が実行されていない場合は、ログアウトしてから再度ログインします。Red Hat は、**gvfs-fuse** を手動で開始することが推奨されていません。

2. `/run/user/UID/gvfs/` パスのシステムユーザー ID (UID) を見つけます。
gvfsd-fuse デーモンには、サービスを公開できるパスが必要です。`/run/user/UID/gvfs/` パスが使用できない場合、**gvfsd-fuse** は `~/gvfs` パスを使用します。

```
$ id -u
```

3. **gvfsd-fuse** が実行していない場合は、**gvfsd-fuse** デーモンを起動します。

```
$ /usr/libexec/gvfsd-fuse -f /run/user/_UID_/gvfs
```

これで FUSE マウントが利用可能になり、アプリケーション内のパスを手動で参照できるようになりました。

4. `/run/user/UID/gvfs/` または `~/gvfs` の場所にある GVFS マウントを探します。

13.2. 非表示の接続 USB ディスクのトラブルシューティング

特定の状況では、フラッシュドライブに接続すると、GNOME デスクトップが表示されない場合があります。フラッシュドライブが **Files** に表示されないものの、**Disks** アプリケーションで確認できる場合は、**Disks** に **Show in user interface** オプションを設定できます。

手順

1. **Disks** アプリケーションを開きます。

2. サイドバーでディスクを選択します。
3. **Volumes** の下で、**Additional partition options (⚙)** → **Edit Mount Options...** をクリックします。
4. **Show in user interface** をクリックします。
5. **OK** をクリックして確認します。
6. フラッシュドライブが表示されない場合は、ドライブを物理的に取り外して、もう一度接続してください。

13.3. FILES に記載されている不明なパーティションまたは不要なパーティションのトラブルシューティング

ディスクをプラグインすると、不明なパーティションまたは不要なパーティションが表示される場合があります。たとえば、フラッシュディスクをプラグインすると、自動的にマウントされ、そのボリュームが **Files** サイドバーに表示されます。一部のデバイスには、バックアップを含む特殊なパーティションがあるか、デバイスに接続するたびに表示されない可能性があるファイルのヘルプがあります。

手順

1. **Disks** アプリケーションを開きます。
2. サイドバーでディスクを選択します。
3. **Volumes** の下で、**Additional partition options (⚙)** → **Edit Mount Options...** をクリックします。
4. **Show in user interface** チェックボックスをオフにします。
5. **OK** をクリックして確認します。

13.4. リモート GVFS ファイルシステムへの接続が利用できない場合のトラブルシューティング

クライアントが仮想ファイルシステムまたはリモートディスクマウントから予期せずに切断され、自動的に再接続されない状況が数多くあります。

このような状況では、エラーメッセージが表示される場合があります。このような状況を引き起こす原因はいくつかあります。

- 接続が中断される。たとえば、ラップトップが Wi-Fi から切断されている。
- ユーザーがしばらく非アクティブになり、サーバーによって切断される (アイドルタイムアウト)。
- コンピューターがスリープモードから再開した。

手順

1. ファイルシステムのマウントを解除します。
2. 再度マウントします。

3. 接続が頻繁に無効になる場合は、GNOME 設定の ネットワーク パネルでその設定を確認します。

13.5. GNOME でのビジーディスクのトラブルシューティング

ディスクがビジーであるという通知を受け取った場合は、ディスクにアクセスしているプログラムを特定します。これにより、実行中のプログラムを終了できます。システムモニター アプリケーションを使用して、プログラムを強制的に強制終了することもできます。

前提条件

- **iotop** ユーティリティーがインストールされている。

```
# dnf install iotop
```

手順

1. 開いているファイルのリストを確認します。
 - **lsdf** コマンドを実行して、開いているファイルのリストを取得します。
 - **lsdf** が利用できない場合は、**ps ax** コマンドを実行します。
 - **System Monitor** を使用すると、GUI で実行中のプロセスを表示できます。
2. プログラムを決定したら、以下のいずれかの方法で終了します。
 - コマンドラインで **kill** コマンドを実行します。
 - **System Monitor** で、プログラムのプロセス名のある行を右クリックし、コンテキストメニューで **End** または **Kill** をクリックします。

関連情報

- **kill** の man ページ

第14章 NFS でユーザー設定の保存

NFS ホームディレクトリーを使用するシステムで GNOME を使用する場合は、**dconf** データベースの **keyfile** バックエンドを設定する必要があります。そうしないと、**dconf** が正常に機能しない可能性があります。この設定では、**dconf** は設定を `~/.config/dconf-keyfile/user` ファイルに保存します。

手順

1. すべてのクライアントで `/etc/dconf/profile/user` ファイルを作成または編集します。
2. `/etc/dconf/profile/user` ファイルの先頭に、次の行を追加します。

```
service-db:keyfile/user
```

3. ユーザーはログアウトしてから再度ログインする必要があります。**dconf** は **keyfile** バックエンドをポーリングして更新が行われたかどうかを判断するため、設定がすぐに更新されない可能性があります。

第15章 ファイル関連付けの設定

さまざまな形式のファイルを開いたりアクセスしたりするように RHEL を設定できます。

GNOME では、MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) タイプを使用して、これらのファイルを開くために使用するファイルおよびアプリケーションの形式を特定するのに役立ちます。

15.1. 多目的インターネットメール拡張の種類

GNOME デスクトップは MIME タイプを使用して次のことを行います。

- デフォルトで特定のファイル形式を開くアプリケーションを決定します。
- 特定の形式のファイルを開くことができる他のアプリケーションを登録します。
- ファイルアプリケーションのファイルプロパティダイアログなどで、ファイルのタイプを記述する文字列を設定します。
- ファイルアプリケーションのファイルプロパティダイアログなどで、特定のファイル形式を表すアイコンを設定します。

MIME タイプ名は指定された形式に従います。

`media-type/subtype-identifier`

`image/jpeg` MIME タイプ名では、`image` はメディアタイプであり、`jpeg` はサブタイプ識別子です。

GNOME は、[Freedesktop.org](https://freedesktop.org) からの MIME (Multipurpose Internet Mail Extension) 情報仕様に従って以下を特定します。

- すべての MIME タイプ仕様ファイルを保存するためのマシン全体およびユーザー固有の場所。
- 特定のファイル形式を開くために使用できるアプリケーションをデスクトップ環境で認識できるように MIME タイプを登録する方法。
- どのアプリケーションをどのファイル形式で開くかを変更する方法。

MIME データベース

MIME データベースは、GNOME が既知の MIME タイプの情報を保存するために使用するすべての MIME タイプ仕様ファイルのコレクションです。

システム管理者の観点から見た MIME データベースの最も重要な部分は、`/usr/share/mime/packages/` ディレクトリーです。ここには、既知の MIME タイプに関する情報を指定する MIME タイプ関連のファイルが保存されます。このようなファイルの例とし

て、`/usr/share/mime/packages/freedesktop.org.xml` があります。デフォルトでは、システムで利用可能な標準 MIME タイプの情報が指定されます。Shared-mime-info パッケージがこのファイルを提供します。

関連情報

- MIME タイプシステムの詳細は、[Freedesktop の Web サイト](https://freedesktop.org) の Shared MIME Info 仕様を参照してください。

15.2. 全ユーザー用のカスタム MIME タイプの追加

システム上のすべてのユーザーに対してカスタム MIME タイプを追加し、その MIME タイプにデフォルトのアプリケーションを登録できます。

手順

1. 以下の内容で `/usr/share/mime/packages/application-x-newtype.xml` ファイルを作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>

<mime-info xmlns="http://www.freedesktop.org/standards/shared-mime-info">
  <mime-type type="application/x-newtype">
    <comment>new mime type</comment>
    <glob pattern="*.xyz"/>
  </mime-type>
</mime-info>
```

ここでのサンプルファイル `application-x-newtype.xml` は、新しい MIME タイプ `application/x-newtype` を定義し、`.xyz` 拡張子の付いたファイル名をその MIME タイプに割り当てます。

2. `/usr/share/applications/` に、以下のような内容で、`myapplication1.desktop` などの名前の付いた新しい `.desktop` ファイルを作成します。

```
[Desktop Entry]
Type=Application
MimeType=application/x-newtype
Name=My Application 1
Exec=myapplication1 field_code
```

ここで、サンプル `myapplication1.desktop` ファイルは `application/x-newtype` MIME タイプを `My Application 1` という名前のアプリケーションに関連付けます。これは、コマンド `myapplication1` で実行します。

`myapplication1` の開始方法に基づいて、[Desktop Entry Specification](#) からそれぞれのフィールドコードを1つ選択します。たとえば、複数のファイルを開くことができるアプリケーションの場合は、次のように使用します。

```
Exec=myapplication1 %F
```

3. root ユーザーとして、変更を有効にするために MIME データベースを更新します。

```
# update-mime-database /usr/share/mime
```

4. root ユーザーとして、アプリケーションデータベースを更新します。

```
# update-desktop-database /usr/share/applications
```

検証手順

1. `*.xyz` ファイルを MIME タイプ `application/x-newtype` に正常に関連付けたことを確認するには、まず `test.xyz` などの空のファイルを作成し、以下のコマンドを実行します。

```
$ touch test.xyz
```

```
$ gvfs-info test.xyz | grep "standard::content-type"
standard::content-type: application/x-newtype
```

2. **myapplication1.desktop** が MIME タイプ **application/x-newtype** のデフォルトの登録アプリケーションとして正しく設定されていることを確認するには、以下のコマンドを実行します。

```
$ gio mime --query application/x-newtype
Default application for 'application/x-newtype': myapplication1.desktop
Registered applications:
  myapplication1.desktop
Recommended applications:
  myapplication1.desktop
```

15.3. 個別ユーザー用のカスタム MIME タイプの追加

システム上の個々のユーザーに対してカスタム MIME タイプを追加し、その MIME タイプに対してデフォルトのアプリケーションを登録できます。

手順

1. `~/.local/share/mime/packages/application-x-newtype.xml` ファイルを以下の内容で作成します。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<mime-info xmlns="http://www.freedesktop.org/standards/shared-mime-info">
  <mime-type type="application/x-newtype">
    <comment>new mime type</comment>
    <glob pattern="*.xyz"/>
  </mime-type>
</mime-info>
```

ここでのサンプルファイル **application-x-newtype.xml** は、新しい MIME タイプ **application/x-newtype** を定義し、**.xyz** 拡張子の付いたファイル名をその MIME タイプに割り当てます。

2. たとえば **myapplication1.desktop** と名前を付けた新しい `.desktop` ファイルを作成し、以下の内容で `~/.local/share/applications/` ディレクトリーに置きます。

```
[Desktop Entry]
Type=Application
MimeType=application/x-newtype
Name=My Application 1
Exec=myapplication1 field_code
```

上記のサンプルファイル **myapplication1.desktop** は、MIME タイプ **application/x-newtype** を My Application 1 という名前のアプリケーションに関連付けます。これは、コマンド **myapplication1** で実行します。

myapplication1 の開始方法に基づいて、[Desktop Entry Specification](#) からそれぞれのフィールドコードを1つ選択します。たとえば、複数のファイルを開くことができるアプリケーションの場合は、次のように使用します。

```
Exec=myapplication1 %F
```

3. 変更を有効にするために MIME データベースを更新します。

```
$ update-mime-database ~/.local/share/mime
```

4. アプリケーションデータベースを更新します。

```
$ update-desktop-database ~/.local/share/applications
```

検証手順

1. *.xyz ファイルを MIME タイプ **application/x-newtype** に正常に関連付けたことを確認するには、最初に空のファイル (例: test.xyz) を作成し、以下のコマンドを実行します。

```
$ touch test.xyz
```

```
$ gvfs-info test.xyz | grep "standard::content-type"
standard::content-type: application/x-newtype
```

2. **myapplication1.desktop** が MIME タイプ **application/x-newtype** のデフォルトの登録アプリケーションとして正しく設定されていることを確認するには、次のコマンドを実行します。

```
$ gio mime --query application/x-newtype
Default application for 'application/x-newtype': myapplication1.desktop
Registered applications:
myapplication1.desktop
Recommended applications:
myapplication1.desktop
```

15.4. デフォルトの MIME タイプを上書きするオプション

デフォルトで、パッケージがインストールした **/usr/share/applications/mimeapps.list** および **/usr/share/applications/gnome-mimeapps.list** ファイルは、特定の MIME タイプを開くために登録するアプリケーションを指定します。

システム管理者は、デフォルトの登録アプリケーションで上書きする MIME タイプのリストで、**/etc/xdg/mimeapps.list** または **/etc/xdg/gnome-mimeapps.list** ファイルを作成できます。

ローカルユーザーは、デフォルトの登録アプリケーションをオーバーライドする MIME タイプのリストで、**~/.local/share/applications/mimeapps.list** または **~/.local/share/applications/gnome-mimeapps.list** ファイルを作成できます。

設定は、以下の順序で適用されます。

1. **/usr/share/applications/**
2. **/etc/xdg/**
3. **~/.local/share/application/**

特定の場所内では、設定が以下の順序で適用されます。

1. mimeapps.list
2. gnome-mimeapps.list

15.5. すべてのユーザーに対してデフォルトの登録アプリケーションの上書き

システム管理者は、要件に基づいて設定を更新できます。システム管理者の設定は、デフォルトのパッケージ設定よりも優先されます。それぞれで、デスクトップ固有の設定は、デスクトップ環境を指定しない設定よりも優先されます。

手順

1. デフォルトの登録アプリケーションを変更する MIME タイプを確認するには、`/usr/share/applications/mimeapps.list` ファイルを参照してください。たとえば、`mimeapps.list` ファイルの以下のサンプルは、MIME タイプ `text/html` および `application/xhtml+xml` のデフォルトの登録アプリケーションを指定します。

```
[Default Applications]
text/html=firefox.desktop
application/xhtml+xml=firefox.desktop
```

上記の例では、対応する `.desktop` ファイル (`firefox.desktop`) を指定してデフォルトのアプリケーション (Mozilla Firefox) を指定します。その他のアプリケーションの `.desktop` ファイルは、`/usr/share/applications/` ディレクトリーにあります。

2. `/etc/xdg/mimeapps.list` ファイルを作成し、このファイルに MIME タイプと対応するデフォルトの登録アプリケーションを指定します。

```
[Default Applications]
text/html=myapplication1.desktop
application/xhtml+xml=myapplication2.desktop
```

この例では、MIME タイプ `text/html` のデフォルトの登録アプリケーションを `myapplication1.desktop` に設定し、MIME タイプ `application/xhtml+xml` を `myapplication2.desktop` に設定します。

検証手順

- これらの設定が適切に機能するには、`myapplication1.desktop` および `myapplication2.desktop` ファイルの両方が `/usr/share/applications/` ディレクトリーに置かれていることを確認します。
- デフォルトの登録アプリケーションが正しく設定されていることを確認します。

```
$ gio mime text/html
Default application for 'text/html': myapplication1.desktop
Registered applications:
myapplication1.desktop
firefox.desktop
Recommended applications:
myapplication1.desktop
firefox.desktop
```

15.6. 個々のユーザー用にデフォルトの登録アプリケーションの上書き

個々のユーザーは、要件に基づいて設定を更新することもできます。この設定は、システム管理者の設定よりも優先され、システム管理者の設定はパッケージ設定よりも優先されます。それぞれで、デスクトップ固有の設定は、デスクトップ環境を指定しない設定よりも優先されます。

手順

1. デフォルトの登録アプリケーションを変更する MIME タイプを確認するには、`/usr/share/applications/mimeapps.list` ファイルを参照してください。たとえば、`mimeapps.list` ファイルの以下のサンプルは、MIME タイプ `text/html` および `application/xhtml+xml` のデフォルトの登録アプリケーションを指定します。

```
[Default Applications]
text/html=firefox.desktop
application/xhtml+xml=firefox.desktop
```

上記の例では、対応する `.desktop` ファイル (`firefox.desktop`) を指定してデフォルトのアプリケーション (Mozilla Firefox) を指定します。その他のアプリケーションの `.desktop` ファイルは、`/usr/share/applications/` ディレクトリーにあります。

2. `~/.local/share/applications/mimeapps.list` ファイルを作成し、このファイルに MIME タイプと対応するデフォルトの登録アプリケーションを指定します。

```
[Default Applications]
text/html=myapplication1.desktop
application/xhtml+xml=myapplication2.desktop
```

この例では、MIME タイプ `text/html` のデフォルトの登録アプリケーションを `myapplication1.desktop` に設定し、MIME タイプ `application/xhtml+xml` を `myapplication2.desktop` に設定します。

検証手順

- これらの設定が適切に機能するには、`myapplication1.desktop` および `myapplication2.desktop` ファイルの両方が `/usr/share/applications/` ディレクトリーに置かれていることを確認します。
- `gio mime query` コマンドを実行して、デフォルトの登録アプリケーションが正しく設定されていることを確認します。

```
$ gio mime text/html
Default application for 'text/html': myapplication1.desktop
Registered applications:
myapplication1.desktop
firefox.desktop
Recommended applications:
myapplication1.desktop
firefox.desktop
```